



煙霞小景

附錄

特別
14
3152
46



14
3152
46



95-65

烟霞小景附録の首に



似る非真層の没理學的の法東縁起異形の白雲
たぢしく御山の繪圖見ると地を存するに是
らゝゝゝ程の山鹿者にはあるが。自は奈
か實際其地に得しものを、杖杖政事の記念
も、之を公の價値有り、且つやいふの錢を後
せしに懐心の事を、海に惜しむ心は、

羽州
山寺

立石寺縁記

日の吸す雨すみと表打ちす
一老を贈しぬ人見らるる
ゆて是もよしと云

万由と一五

美成の景や晴る空の下に

羽州立石寺畧縁記

夫常山草創の末由ハ貞觀年中人白五十六代
清和帝ハ清宇本朝台宗弟二祖慈覺大師ハ開基
闡くわん乃の靈りやう窟くわくあり苗三濟みづみけの巖いわと切き拓たく中ちゆう央やうと拓たく奉
如法堂にょほふだうと稱なづ興きやう院いん寺ていと立石たていしと号なづけ中ちゆう峯ほう尾び濟さいの
巖いわ窟くわくにい五ご丈ぢゆうのまままのま像ざうを安あん壺ちゆう一いつ條じやう地ぢに靈りやう窟くわくに
於おて親しん法ほふを修しゆて久きう住じゆうと祈いのりち壇だん址ぢの洞どう巖いわに於おて百ひやく
日にちの護ご摩まを修しゆてし予よららるるにああははにに善ぜんくく塵ちん刹しやくにに返かへし上うへ

天子より下庶民に至るまで平等に利益を乞ふ
淨自筆の記文に詳あり大師佛のゆゑ衣物を捨て
妙金千両麻布二千疋と奉納三百十町の免を寺領
と定る所也東國境と限り西國境と限り西國境
川を隔り北は六所の過と隔り四所と隔

清和天皇のその志を獻感まり一立石倉印は瑞雲を
賜ふたす今宝おの御に金剛杵燈油田大師少年より七十の
言辭ことばに在るといふ東法所持乃金剛杵きんごうしあむかふあむかふ燈あき

録して密を授け給ふに飛て是後正る所と金剛杵
田燈油田の事と在るの餘地全南の地今唐境と在るも
金剛杵燈油田の事と在るの餘地全南の地今唐境と在るも
表せしむるに所持のもの杵を授け給ふ事と在るの餘地全南の地今唐境と在るも
は昔哉哉し堂に佛法加護と在るも一と書記に在る
所より元下常事れ事と在るの境もいつし隣りの
所より元下常事れ事と在るの境もいつし隣りの
一より其安元年堂幕府淨二代家改て千七百二十石に

淨土宗と成し元由を紀し慈覺大師金剛杵田於と
場一異地也

奥院本堂ハ用山大師入唐三國信來此釈迦多宝菩薩也
塔外ハ左右ニ多門持國の二天十羅刹女ハ具此安座
有る挿是れ若燈明此由來を記るに奉納天台宗始祖
信教大師比叡山を削き築きて松平中堂に挑け置る也
燈あり橋ハ三國信來堅にハ二世の滅の熾盛光二火次で
此如く天地人の現の過現の來也耀の慈烟滅ハ以て廣大

ある者あり也用山開基ハ刻大師叡山の燈火を傳し
終き終り也燈あり又觀此規規ハ山上の任任又
一月の順番に堂の偏舎に止宿し於にハ後夜あり沐
浴衣ハ戒法服律衣と著し供華燒香持幡行を盡
夜三時懈らば石臺草草と以て淨紙ハ經地に七行を此
法華經と著す也一用山大師乃軌則を如法に守りま諸
の乃俗滅罪生善生佛淨土法施念とに於るに享福
年中此ハ天童成生不時に發向の刻也燈も新行し廢退

其時に任僧一相坊四海を憂ひ天文十二年比叡
山に於り松本中堂の燈火と一法再ひ岩山を燈明
挑げしめむとて天文十二年卯月十日大聖廣四時
蘭梨再ひ勅行を始るありて後元龜二年比叡山延
曆寺堂塔兵火に灰燼に探茲僧正高盛天文十二年延曆
寺中堂再建一同十七年岩山元明此火を招き比叡山中
堂のやが燈とて本末をいともふゆ後一あり天文十二
年より今に至る二百六十余年大師前基此由朝に復

一急る事なり一傳に著す

奥院後に買水あり信吉大師前基の落山上に水あり
て後東住僧供華水に憂入事を懸て汲りて持
此獨銘を以て地を穿ち強ハ忽清水湧出以因て銘水
と謂ふ此獨銘今堂物の内にある
奥院南に當て開山大師堂あり其像安ありてなるその
傍に卓立する數十丈の危巖あり其巖最頂に小塔塔
件の在黒堂草堂にて如法書よめ法經開月の年卯月廿

八日を納まて因て鍾堂と号し、生東南に向て開出大師
貞觀六年正月十日入心之、孫の巖窟あり前に、溪
川^{せき}流^りて花^ち芽^めれ峯^のに^まり^て大師大唐に遊學し
て上求下化し、本朝に普門^{ふもん}の現^{けん}不思議の化る多けれ
とも、永く末代に及り、孫の言に崇山の冥窟にあり

三時西巖を天物岩とあふ、中脈に朝日觀音十六羅
漢、其言偈あり、數十丈の中脈におき、糸^{いと}指^され^て峯^の頂^のに^あり^て
中谷東北巖根に、三熱池と稱する、有り俗に血^ち池^ぢと号して

女人五障^{ごしょう}三優^{さんゆう}の罪^{つみ}除^ぬき、一月水^{みづ}産^うみ^て穢^{けが}れたる
血^ちをそぎ、地神^{ぢしん}水^{みづ}神^{かみ}を^たま^はす、なるまき、罪^{つみ}を^ぬき
除^ぬくに、血^ちを^ぬぎ、信^{しん}一^{いつ}以^も經^{きやう}を^たも^つ、なる時^{とき}ハ、罪^{つみ}
消滅^{しょうめつ}と、經^{きやう}文^{ぶん}明^{めい}を^たも^つ、女人^{にょにん}、頂^{ちやう}戴^{たい}して、ありとも、以^も
三熱池^{さんねつぢ}に^たま^はす、信心^{しんじん}の力^{ちから}を^たも^つ、か、以^も罪^{つみ}障^{しょう}消滅^{しょうめつ}轉^{てん}あ
る、り、後

東岩北尾崎に、釈迦堂あり、断崖^{だんがい}數十丈、巖端^{がんたん}に、衆^{しゆ}ま^はす
三時、東北^{さんじ}一嶺^{いつりやう}とあり、以^も堂^{だう}、ふるに、胎^{たい}内^{ない}潜^{せん}とて、危^き山^{さん}の中^{ちゆう}

波と小閣を架す一階子を以て福聚とは所の小堂
に地蔵菩薩を安置す一なる

林森に比叡山の松本に掛一中堂に東陣如来を安置
一なるは乾に爲て人皇五十六代 清和天皇は佛石

塔あり

若行堂阿弥陀佛を初念佛退轉あり三界万有
縁を縁曲向の雲雲あり

山王七社八王子は宮に比叡山坂本に掛して前なる真念

をくけたるは琵琶湖を撰寫一山王は系祀も本山は

如くは月中に申にありは八王子夜交回樂法師の所作

も比叡山日吉系り末は夜の軌式開山大師相傳は古来天

下器平山土安念は法祈禱昼夜怠る事な

往昔のの川より内に七院とて安養院若津院中院南院

百形院千手院山王院とありしは寺寺の悉く氏

家此住居とありて昔の寺号を村の小字とて此の外非

社佛閣記に暇阿は物變早移り昔に比叡の方に十千

にいつし金如子に於かれと奥院乃三火一燈并勤行此
軌別退轉るく甚麻の乃念佛日護麻満山の勤行怠り
是偏に開山大師の弘誓言金剛杵に威力ありて及山奥
院の依止る等ハ現世安穩後生の善處導き臨みんと
云尔

羽州山寺

寶珠山

工立

石寺

文化五戊辰年



安房國

千光山清澄寺畧縁起

清澄山略縁記

抑安房の國清澄山の者仁天皇の御宇寶龜二年不
 祇法師の草創仁明天皇の御宇養和三年慈覺大師
 の中興本寺の虚空藏菩薩即日本三尊菩薩乃隨
 一經滿諸願の寺なり其開基の初妙見菩薩若く曰く
 此地ハ燃燈佛の周位説法利生ハ灵場なり今其之遠
 近ハ一寺に於て日此に云々旧事記云神代ハ天宮

の命経乃其地人其れ初命れ昔に依く祠と八尾子光乃
頂に立紀山に池あり滞雨ふもにぶること(は)傍に栢樹あり
子光夜く熾盛かりまれよのく山を子光と号し池ふ
志たぐく清滝と名く蓋是上古のあ名なり代替り
星移り神祠に頼廢し人跡永く絶たり一日法師を
宿願を依く来るといふも山除谷深しく乃ぼることを
得む中流よりいふこと數日一朝勇猛乃勅念日業(は)能
乃げや池の邊にいたる時雲中に若翁あり告く曰く
いま汝を待ふといふ事今果して来り汝は栢樹を
像材として雲霧の像を彫刻し此山を安曇
せ利益を成すなり我は甚妙見菩薩なりと言ふ
く又(は)法師は昔に志たぐひ彫刻し安曇せんとするに
山に池あり池水浸るごとくして精舎を立ふ地あり時小神人
あり告く曰く池の我を成すなりといふも我去らば汝が願

成就せんと別方山に飛で化して石となる石借小毛と八尋石

こい其後他潤平地となる美におわく伽藍を立す縁

を安基し奉系に昇發日に新しして遠近の僧俗投飯

せむこいふことなり作用已に備り名祿なりとのハ何れじ

是小依り上古の女名奉考れ秘号を取りて干光山

金剛寶院清澄寺と号し時ニ法師精舎の例にお

其後水中に明星献向あり是に依り明星氷と号を又

法師秘藏の寶珠あり是を三和ふおさむ其名を寶珠山

摩尼山如意山と号を脱して法師を亦とおまにおのて

諸人奇異れ思むをほ号位して不思議法師といふ維時

孝仁天皇の濟宇寶龜三年なり仁明天皇の濟宇兼和

年慈覺大師當山中興乃砌精舎のお嶺おわく露地

をさいと壇として求同持徳あり其嶺を露地と

いふ其壇上におわく

不考此其容感得

〇三

いふ其壇上におわく不考此其容感得一ゆふ然といふ

心に猶うさかひあり時々其容老空に飛去る別慈覚

釣石乃観ふ入く獨股を投む其獨股のおちしを

獨股ふといふ其獨股を尋ふに其容にもに得るけり

を秘伝として餘人お不見れ重寶とを又南嶺と鬼

頼あり動もまれば人をふ奪まると慈覚勇勅の加持

より即時小清散をす嶺を新井ふといふ鬼門は

として東北の嶺に不動を安置しわふを令別ふ

といふ小嶽又淺間菩薩を勅請し富士と号を上古を

惣じて清浄又み光と号して別々此名かといふも用

山中真以來河乃縁に志たけり各名を併たり坂川

乃院嘉保三年雷火に依り伽藍僧坊灰塵となる國主

源の親元奉まじ美具を信し元れとて再嘗を美久年

中謙舎二位禪元宝塔輪義建立しゆひ義ふ一切經を

おさめ塔にハ如來右眼乃舍利毘首羯磨不造の涅槃像

を安置し中ふ天正年中上総の西入田に城を築き木大塔

乃亮い舍利の玉佛をうごひ作工として打立むるといふ

色妙も撰むること也其時大膳感心懺悔しふをこころ

おわく木田武十八石餘寄附せり日蓮上人ハ十二歳ハ時

電山一諸佛坊道禪と師に十六歳にうり判書しふ

初れ名ハ是世房蓮長後と改り相違と保とて電山人

に祈誓し一宗建立し力と上人制作の書に記たり諸

人乃知る和なり上総の国すり谷真如寺開山慈心禪師

ハ本寺の具徳により豁然大悟の頓益を得らるる也

信く彼寺代々古例として入院乃後必と兼諸君の増上

寺弟三十二世貞雲大僧正平生奉るに敏依りわひ

深信勲勇の功に依り明るの瑞應あり縁増上寺職乃

台命を受僧家此極官に昇りなり弟に十世行雲大

僧正も深重の皈依により具感祥瑞あり現益を得る

一と又遂に善人僧正に依りて信くあ人僧正ともに由送命

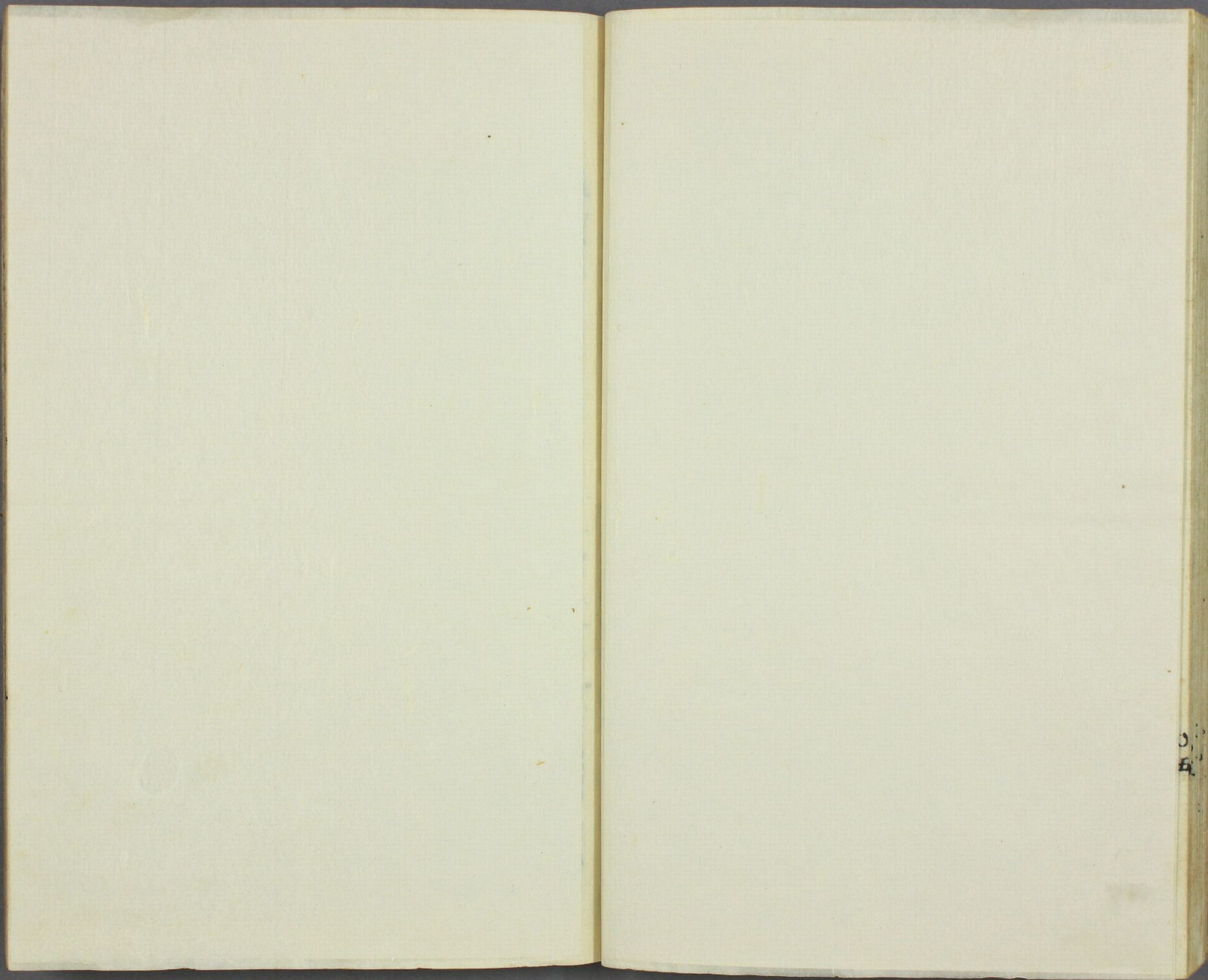
こして法衣乃奉納ありけ周縁に依り増上寺會下小

かたより化山の輪下に在る此一派一同に隨表隨信きて今に

ある迄年くたどる来後勇勅乃流中あり此外古往今

来信心の僧侶具感現益奉て教びて今志づく

一二を擧げて全きをわづらふと和福九牛が一毛



夫上総國周集郡麻野山神形寺の檀古檀古天皇の御代
聖徳太子草創志流山の天陽御代太子の自業師軍奉利の
尊像以彫刻安置し流山と云ふ御代州山の上り武吉東征
時阿多志王との庚を謀成りて山を埋めぬ
亦御叙を遠し流山血泪血草河不と云くは天跡なる事績後の
世ふまじめん且い妖乞の流護りたる流山太子東海を御
乃常志をなりし流山今もその神祠を流山守銀齋の社と
け附りありと云ふ今此社の社名と云ふは流山守銀齋の社と
佛佛日の光を世のりすと云ふは流山守銀齋の社と云ふは
佛佛日の光を世のりすと云ふは流山守銀齋の社と云ふは

ら・わも・ひかり・なる・あつそ
地と傳ふ村きてまに出門より刻由奇のすぬきも亦飯瀬橋況
為國古候より愛ふなほいふはもとよりの公利此事
吉出船やまのなるかや水風ふくむに渡海叶はれぬ
善もれぬや運風ももあつそよりの舟をさるゝ忽風船帆平

あつそ・ひかり・なる・あつそ
の・あつそ・ひかり・なる・あつそ
戸鉄炮剛やまよせたまふ時水も奇異は思ひをさるゝ則
の・あつそ・ひかり・なる・あつそ

不持の的玉丸とす身見や亦元禄の比小徳信より有法の人少
不息なるはと悲と大婦俱あまの糸巻一七七日夜念ひ
のたまふとんし・あつそ・ひかり・なる・あつそ
不持の的玉丸とす身見や亦元禄の比小徳信より有法の人少
不息なるはと悲と大婦俱あまの糸巻一七七日夜念ひ
のたまふとんし・あつそ・ひかり・なる・あつそ

嘆ひ今小寺人形宗業して伝人傳りす母度系法
他異これい葛西領一病眼の夕天法成加はるのあり
尚寺の申言る愛忠の遺文と云今細田村安石處の毒毛
あり尚山小おぬてと右へより愛忠の目洗あり有或ハ火衆
まろがごとく小僧一又ハ水邊法下成り例中ハ小鉢編せり
然則伝教師依乃事ハ或ハ齋戒ハれこくハ優遊ハ盲
れたぬと云下に利差成其勢がめさハ存常さくさく
亦ハ教訓せん程軍荼利夜及の王ハ悪魔降伏の
言ハ毒蛇成まる扇て強格と一忿怒の妙術と

此ハ軍持の定運成り後一法ハ亦飯總持成ハなり
民の通達成禱一團長及と責持ハハ大地源重乃
多末世人ハ喝作然るさらん若一夜系法の事ハ現世ハ
横死厄難と免れ殊小女人産生の擁護ホさくハ
陸谷の意とらるごとく況や後尚東丹ハ水く上承乃
是ハ抱人ハ事成及りぬ一事ハ神札小尼くより尚寺乃
久ハ古記ハ著ハせり今果成なる小女形而已

申す事

鹿野山一覽記

上総國周准郡鹿野山神野寺仁王三十四代
 推古天皇の御宇聖德太子開基草創
 聖場なりは度神社佛閣を奉拜名所小杖と
 横一曰はふ手をつねに山冥山冥此古きこと一ハ
 友の良吉野の都をさくまの系古今の塔の記を
 きこととくくり此往來を問へ四方に貫道一ハ
 國の府中より三四里と云く高山絶景の異地態の
 白鳥春日の峰、高野山の三鎮にひとりと菩薩

本里

鹿王の化跡（鹿王の跡）を示強（鹿苑場）の鹿苑場（鹿苑場）も可仰（可仰）矣（矣）場（場）をう
先仁王門（先仁王門）は登仰面（登仰面）を望見（望見）し額（額）ハ智積僧正（智積僧正）
治如の筆（治如の筆）に阿吽（阿吽）の仁王（仁王）跋提（跋提）忿怒（忿怒）の威勢（威勢）を現
さく佛作（佛作）と云傳（云傳）本堂（本堂）ハ南（南）に向十間（十間）四面（四面）の伽藍（伽藍）
高九丈六尺（高九丈六尺）尤二重（尤二重）ハ母屋（母屋）也初重（初重）ハ檜（檜）肌（肌）御拜唐（御拜唐）
破風雲水（破風雲水）に於（於）の見佛（見佛）ハ蛇（蛇）子（子）藤四郎（藤四郎）二形（二形）ハ阿吽（阿吽）の
獅子（獅子）ハ嶋村（嶋村）因徹（因徹）宮殿（宮殿）に金銀（金銀）をありハ三間（三間）余（余）の眞
彌壇（彌壇）上（上）ハ千鳥（千鳥）の二重（二重）普請（普請）いら（いら）と並（並）翠軍（翠軍）時煥（時煥）純
と一（と一）奇麗（奇麗）善畫（善畫）盡（盡）せり

本尊ハ茶師（茶師）如未（如未）軍茶利明王（軍茶利明王）の西尊（西尊）御長（御長）一丈二尺
上宮太子（上宮太子）の御彫刻（御彫刻）伏（伏）て冥山（冥山）と信（信）仰（仰）て冥像（冥像）墓
親（親）ハ考（考）上人（上人）常陸（常陸）梅田（梅田）の里（里）より糸流（糸流）一（一）條（條）ひきつり
随従（随従）の名跡（名跡）御質（御質）と云（と云）ら（ら）め教行（教行）信證（信證）の成就（成就）を
祈源賴朝公（祈源賴朝公）ハ御口（御口）を秋（秋）ハ勝利（勝利）の鋒先（鋒先）と（と）のり
不日（不日）に（に）く千葉（千葉）北條（北條）味方（味方）を（を）は（は）終（終）ふ（ふ）為（為）御城中（御城中）
御代（御代）ハ南方（南方）守（守）之（之）後（後）佛閣（佛閣）從古（從古）の草創（草創）今（今）に至（至）ミ（ミ）カ（カ）テ
東照權現（東照權現）様（様）御朱印（御朱印）御文言（御文言）に可相（可相）武運（武運）長久（長久）の
懃祈（懃祈）之狀（之狀）と被下置（被下置）南方（南方）軍茶利（軍茶利）茶又（茶又）の道場（道場）

西殿より不動毘舍門日光月光十一神後堂より
太子十六女の御貨札巻の雲於八狩野房信二間
にて天人羅綾の扱ひ敷多一初馬あり阿久留王
御治の園ハ栲の章信富士の狩場ハ右京
狩奇連佛のたぐい流づくまてかまかに申く
あはに西廊つゞきま天下安全ましく成就長日の獲
摩堂東ハ十一面觀世音行基菩薩の御化迎
北ハ西國三十三所の觀世音と安んじ一なること
は御詠奇と記せり并庚申堂鐘樓堂鐘樓

蓮尚傍正の御ととめ四方の彫物ハ左甚五てい刻
刀の名と御す西ハ弥勒堂諸地在一切徑花ハ
弥勒菩薩并文殊普賢夫より御詠東照
稲荷八幡山玉天神宮其頂百歩計より一
熊野三社ハ飯綱の御廟山中法度の惣社神
さひ方ハ本林くとしてはる難き所膳は後ハ
稻敷を敬白一神明大杉并又天念は奉拜し
諸尊諸神惣本堂を圍致一花世三天の
七社見成ことり信心の守ハ拂員は福祈

えつる 不の空感夜如 夜御考者 春日 暁より

坊山に任ふに 葦菰の二の 雨音の使者より 射

て 洞然と 打て 倒帳師あり 津崎に 鳥の羽の 下白

総局 耕作 悪虫の 使者 本堂の 庭を 立て 西のこ

・ 供の 井おは ぼは 蓮の 考者 不浄を ともひ 涼し

さ 考こ ちよ 滋 不動と 石碑の 匂に 揚き けて

や 坂を 下れ 良 奔 傍 都 津 他の 不動 津 手 洗

の 滋 清 泉 吐 玉 水 溜 こと 々 竹 谷 谷 答 山

流 風 冷に 醒して 進ま たり 禊 ぎの 大 泉

ハ 魔 亦 小 人 倫の 及ぶ こと び 大 半 嶺 垣

に して 足 えて 越 たり ぎ 滋 毒 あり 津 手 洗 の

上 に 津 夢 想 の 目 洗 水 清 涼 として 溢 水

流る 本 堂 より 東 北 の 隅 に 高 門 あり 本 院

神 野 寺 あり 家 康 公 出 置 山 境 内 一 里 四 方

茶 草 牛 村 の 郷 自 津 筆 を 下 して 渡 津 津 津

印 井 津 制 禁 庭 前 日本 一 木 の 糸 様

二十 間 茶 枝 四 方 に 赤 折 の 水 花 々 四 々

の泣人をもえに掃部制の高札と建春の掃
怨を望しを紙短冊枝にひらりて夏風
香えしや、月清し地狂の越人口はあふ風
後師の教のこひに手と抱く壺門を出て
右の方に権現公御お祭の宿間坊の内なる
園山の京後稱せたり十院右門をけり孫門
おの民家の百有軒と分て西の眞福寺にお
阿伽井所東山鎮より赤日本衣著し如徳此
殿

赤鉢とありて羅刹鬼王のこころ不奉王命
氏の昔家征伐の初を關東に發向し終ふこころ
阿久為王教多れ鬼類と集駿州丹出近奉たふに
鬼類敗北して終り退て者山の小山嶺より水
寺諸神の威を承りて再會の村におに鬼類運
お坂村雲の御命にこころお對治埋其野驛阿久為
塚といふ其鮮血草に染て一塵流るりやめり赤し地
と時て今に血草川といふ又深川といふ郡原首を
及此別悲涙は血す鬼涙原の地名は由あり此故

太子此山を草創し臨み内永くそを奉宗東國の
鎮守白鳥明神と尊号す其社苔むして御魂歷は
と如に怨みおほし神相となりて千尺の石櫃とす
曾聞昔時天人来下して妓乐梵唄の聲滿空
響重山亦有り以奉天樂劇と云傳ふ峻嶒高
ととして切利の雲も手にとらりことく雲谷深
ととして凡の隙の庭も足ふ踏春ははは此花盛
秋は紅葉ふり紅い誠は子綿をまつくこと
林の村尾は近し鼻岩は存をたし

一國の杖のおに熟葉を北山の杉檜の空とすのひ
平野をほく其皇仁明天王の治世は釈圓仁和尙
号慈覺 當山再興神社佛閣等志後内瑜伽
大師 の靈地を示し終ふ

八尾 八化 八峯 八塚 三十二箇
鬼畜人天 盧舎那道場

諸人の罪消ゆる神の野ハ
四畝四菩薩五山の五如来

夫曼荼羅羅會輪圓の佛山若と今に於大相
冥の遺跡を法行不貴哉智識の金言八尾ハ
山秋の瓦不動の尾春日尾地並尾金の尾雷松尾
八峯の越る八尾の頂を以化とつて一見水二化三化
能化七刺化七即谷化く不見作大能化八塔並通水ハ
何久留王塚火定塚不動塚松塚行人塚
二塚四敵五塔北地名をたつ孫慈眼度子杖を休め
塔の松島帽子山塔の脊より仁王沢より能輪倉
一峯は田舎村の形まつき七高太郎谷ハ天神象向
の古社谷を越峯にのほ水ハ九塔の半後原云々
向ハ金剛石ハ不盡不壞よりして誠ハ実相智を
拜する也身法そつと空を来りて湯仰の杖ひせ
有葉の他の細道を茶林の尾り西海蒼江海を
抜い西の海道並木の杉ハ両側杖をわくそひ大松
ハ大鳥居地名を名井跡といふ高州天羽の往來
山中一の勝境なり新く名井跡の水茶やる勝
どのそく烟を以て見候ハ近くハ望遠也

関准天羽の郡南西の介海に入り内に入り二百里を
 是江府に流行す袖志千種黒戸の浦より松橋
 行徳の岸を待ふて浙江の瀬をたふ加志川の入江
 志志川の沖波お浪の船やまへる類十六浦金沢の
 斤男浪羅那の袴櫂の白糸の梅をくくめく小
 見へ往来廻航象水は流へること一巻の箱根
 伊豆の大崎所都利山嶺石日光筑波山虎
 の窟跡の襦ることく三巻石不動石四天四王
 麦水杜戸剛神居なり敬白精心をし開東百里
 一瞬は見えぬ三十世眼ハ眼前は十二因縁の葉小巻
 一四郎多少の老若只不信有尊の感念之仰
 聖坊の佛山なり豈に妄を不信して彼所小御人
 や帝日記に元はいつ後人を及引んとすふ草
 と揮へた才是るに詞を考んとす方に智後一人の
 見く遠はし水色散の短と福すわらぬしを
 書後了止ぬ

安永九年三月 普門院重如尊後

上総國周匝郡鹿野山神野寺

親鸞上人自作の御影安置此

畧縁起

蓋聞聖賢の世に^{あり}て^は影^を託^する^は^以て^世に^は無^き方^{なり}
所止の處利益^{あり}と^なり^しなり
或人^云く親鸞上人^御自作^此
御影當山^小安置^の由^來并^自親^用刻^す
御影因縁如何^卷日記^に撰^く柳^山
は往昔聖徳太子の御影起^并自御影



刻の考像お置の靈場なりはくきく
祝の考聖人は太子御作の契機と御願
有るお礼まぐんと常陸國稲田の郷
衆生教化の及さる諸行無常の錫せり
ひ山小糸詣り給ひぬ其時買像唯州花
不安置香火供養此僧侶もなり聖人礼拝
恭敬か一給ひ未考像の時至らばと感涙此
此社と志願し給ひ一七日念佛三昧と深く通夜
念ふ念佛の時か高城郡里郷黨の信男女
くなく我今改悔の報恩も一朝夕の而禮と
中あけ安心定定の事其教を了す自門他門の
偏なく離別の此社に修りひきまらぬに悲
願の行者亦く考像のねれも是を當免さる一談か
うや形有財の教志さるひ教ある時か著をるともや
聖人あつて考像香花の随送せし給ひ又ハ信男女
利益の益吾形像を刻銘人とい時自御手と下
御像を彫刻し給ひ附奉り給ふとなり 永く奉

神野古徳一の侍細六が遺を継ふ也又相模の國
 平河原風多てお高國へ出渡ありし時黒石山より
 出山へうらを移れ延び一夜の宿を乞ひ終ふ上人
 とて守出一人に宿り若もなくお高一宿夜まで
 此離れありし時多家此老翁一の其妻をかくはひ
 らし木敷屋母一夜を渡せりさしとては知れ老
 翁此翁あり其妻のしとて其側を其妻輪也
 と此名付被下しとありはるしお高子中此日記
 男女離別の名結儀しすれ別れらるとち
 在旧記の要を採て其大略を記

附 上総國 神野寺

此のやんこくふしき 此のやんこくふしき
 此河木像不思儀の堂に應昔より開傳るとも
 峯に在りし由ありは極るに時之興廢を此例し
 明和八年とし極月十日の夜何者の不あとも
 此久しき河行儀ふくなくを此不波是可尋るい
 此のやんこくふしき 此のやんこくふしき

更まふらひの方かたをまりすすの空ひらくの年月としげふをたらくのにらるに
安やすふの面おもてとし極たぎ月つき十じゅう日にち此こゝ夜よ七しち年ねんめましと
月つき日にちとし同どう夜よ小せう花はな末すえのとく二夜よ隔ひらを経ふ以
本もと佛ぶつの奇得とく神かみ靈りやうとし又また不ふ思し義ぎ不ふ可か得とく
あらとし自みづか他た家けの老若わく男おとこ女めづめ礼らい解げ懺ざん悔けの
瑞みづき依よをさしぬ我われ視けん不けん見けん聞きすら亦また遠とほ小
書かき載のる者也

羽前國東田川郡羽月山鎮座
官幣中社月山神社祭神月讀尊

例祭七月十五日

此の神社ハ社記ニ神代の昔より月山の頂上ニ鎮り坐して延喜式神名帳ニ載る出羽國飽海郡月山神社神の御本社也。事明瞭より三代實録貞觀六年二月授出羽國正四位勳六等月山神正三位正四位下勳五等大物忌神正四位上同十八年八月授出羽國從三位勳六等月山神正三位元慶二年七月出羽國正三位勳五等大物忌神正三位勳六等月山神並益封各二戸與本並各四戸每發軍使國司祈禱故有此加増也。又新抄勳傳三實錄四實錄九出羽國正位勳六等月山神並益封同八月正三位勳五等大物忌神進勳三等正三位勳六等月山神勳四等從五位下勳九等小物忌神勳七等先是右中辨兼權守藤原朝臣保則奏言此二神自古時方征賊標奇驗云云同四年二月出羽國正三位勳四等月山神正三位勳三等大物忌神並授從二位上とあるを以て古來 朝廷の御尊崇他不起る給ふと知るべし。明治七年八月三十一日國幣中社ニ列せられ同十八年四月廿二日官幣中社ニ昇格せられたり。

羽前國東田川郡羽黑山鎮座
國幣小社出羽神社祭神稻倉魂命 王依姫命

例祭七月十五日

此の神社ハ社記ニ延喜式神名帳ニ載る出羽國田川郡伊波神社とある御社也。推古天皇の御宇出羽國大泉庄官吏某疾以病む年を経て百藥其驗ナリ一旦神靈ヲ歸依セリ。病愈ぬ因て 朝廷ニ奏聞して本社を草創す。夫より 朝廷七千の僧徒を置き由利庄内仙北等數郡を寄附し給ふ。見えたり當社の古來繁榮あるハ今更云ふ及ばざる。西より中世兩部の時代より別當長吏執行院主大先達學頭宮司女別當等の諸職ありて當時衆徒ハ一山に充滿セリ。とぞかくて後冷泉天皇の天喜五年源賴義及び義家大神の擁護に憑り遂に安倍貞任を誅戮せしを以て其神徳を奏聞せしに 主上甚く歡感し。て羽黑三所大權現三所大權現とあり。羽月山出羽神社の兩山の合祭の靈山也。三山を禁野と云はれ。三所の神也。といふ七字の勅額を賜りて勅願所と定められ又殊小勅宣ありて奥州出羽信濃佐渡越後五ヶ國の總鎮守と崇めさせられき實古來此五國を出羽神社の敷地と唱へ其人民の幸福を祈らめたるハ此舊例不ゆると云ふをありける。扱又義家不も深く靈應を感し報賽として社殿を再建し最も尊崇を盡せり。ついで由縁よりて爾來武將の尊信大抵ありて彼藤原秀衡を始りて源義経即黨源慶土肥實平北條時頼大友能直高梨政頼大崎義隆長崎泰光最上義光酒井忠勝等故擧げ暇ありず就中最上義光ハ崇敬の念深かりしハ神領をも寄附たり其後寛文五年不至り徳川家朱印を以て千五百石餘を社領と定む。文政六年七月出羽神社羽黑三所大權現と社稱を改め正一位を授給ひ明治六年三月七日國幣小社ニ列せられたり。

羽前國東田川郡湯殿山鎮座
國幣小社湯殿山神社祭神大山津見命

此の御社の五味薬湯の湧き出る原五味薬湯の事ハ蓋置傳ハ出羽國大船津郡上三浦村五味薬湯を以て本社と崇めて往古より社殿を造らば則月山の奥院とも稱せし地あり余詰の諸人此地を履み此實前ふいり天然大... (transcription of the main text)

攝社蜂子神社祭神蜂子皇子

例祭大陰曆七月晦日夜

此は日本書紀崇峻天皇の巻元年三月立大伴糠手連女小皇子為妃是生蜂子皇子與錦代皇女とある則その皇子尊を祭れり神社なり社記崇峻天皇第三王子との御名を參據理法名を弘海と申奉りて御容體ハ陋醜ありて... (transcription of the text starting with '此は日本書紀...')

三山神社

中野 謹 謹 述

せうれいせいの世も
 絶えしと見川
 多しとふとけり
 ふかやちあはれ
 ありとふとけり
 月影見せし
 心よきわ
 伏見宮史書女王
 名のみきくよまが
 しまふみちのこの
 柳津けせの
 不うまやうらむ
 大納言愛親

靈巖山園藏寺

靈巖山園藏寺略縁記

當寺ハ八皇五十一代平城天皇ノ御宇
 大同二丁支藏法相宗徳一大師靈瑞ヲ
 感得シテ創立スル靈場ニシテ本尊ハ
 即三層空藏ノ其一福滿屋空藏菩薩ナ
 リ古記ニ福滿屋空藏菩薩ハ八皇五十
 代桓武天皇ノ御宇延暦廿三年弘法大
 師入唐シテ青龍寺ノ慧果阿闍梨ヨリ
 金胎兩部ノ秘鑿及三鈷ト交樹ト授カリ
 達ニ日本ニ向ヒ杖有縁ノ靈地ニ止マ
 ルベシト折念シテ其三鈷ト交樹トヲ
 施ツ奇哉三鈷ハ紀伊國室ノ郡南山ノ
 松ニ樹レリ(當野山是ナリ)交樹ハ同國
 那智ノ浦ヨリ安房國天野浦ニ漂着セ
 リ時ニ大同元年大師歸朝諸國行脚ノ
 際北樹ヲ筮ニ得テ伐テ三段トナシ再
 ビ海ニ投ジテ有縁ノ地ヲホム本ツ木
 ハ同國清澄ニ得テ能滿屋空藏ヲ刻ミ
 中ツ木ハ常陸國村松ニ得テ大滿屋空
 藏ヲ刻ミ赤ツ木ハ越ノ海ヨリ曾津訃
 川ヲ沂テ三本柳津ニ止マリ一七日間
 漂ヘリ(今柳津村是リ)漁翁即本村坂上重
 郎氏ノ祖先之ヲ搦ケテ將ニ芥ヲ下サ
 ントス時ニ忽チ光輝ヲ放ケ微妙ノ響

ヲ發セリ漁翁大ニ驚キ怖レテ靈告ア
 ランヲ折ル其夜夢ニ告テ曰ク此ハ
 是中天竺ノ交樹ナリ大師未ラバ此靈
 木ヲ捧クベシト此時大師ハ只空シク
 上流十三里間ヲ見テ此ニ來リ(今見川是
 シ)之ヲ得テ大ニ喜ヒ一刀ニ體彫刻シ
 テ安置セラル、者ハ即是當寺ノ本尊
 福滿屋空藏大菩薩ニシテ其靈驗最モ
 著明ナリ是故ニ往昔逆代ノ領主深ク
 菩薩ヲ敬信セラル、ノミナラズ莊田
 山林等ヲ寄進シテ厚ク當寺ヲ保護セ
 ラル徳川將軍家ニ於テハ層代深ク菩
 薩ヲ敬信セラレテ永ク當寺ヲ祈願附
 トナシ其他諸侯大天四民深ク菩薩ヲ
 敬信シテ感應ヲ蒙ラル、事蹟之アル
 モ枚舉スルニ遑アラズ而シテ福島山
 形新瀧茨城宮城等ノ各縣ハ勿論四方
 ノ信者日ニ衆積スルノミナラズ種々
 ノ法器ヲ奉納シテ佛恩ヲ報スルモノ
 少カラズ持ニ陸曆一月七日八月廿日
 ノ如キハ數千ノ信者來籠シテ大地
 方ノ繁榮ヲ來ス聖ニ是當寺ハ本國氣
 ニノ靈場ニシテ人心ヲ感化シ政化ヲ
 翼實スルモノ茲ニ一千九十年ナリ今
 北靈塔ノ真圖ヲ出版スルニ當寺ノ縁
 記概略ヲ叙シ以テ信者ニ領ツ去爾
 明治廿八年七月廿六日
 岩代柳津園藏寺

三四所にして奥の院可其他に見川の河岸に男姓原魚淵に
わく石鳥帽子石七蛇石墨石舟石亀石塊石等石をいふ
凡石すま川石在舟橋石大石趣藻石しし近日春漲の局
に流石しと云寺下には旅店也

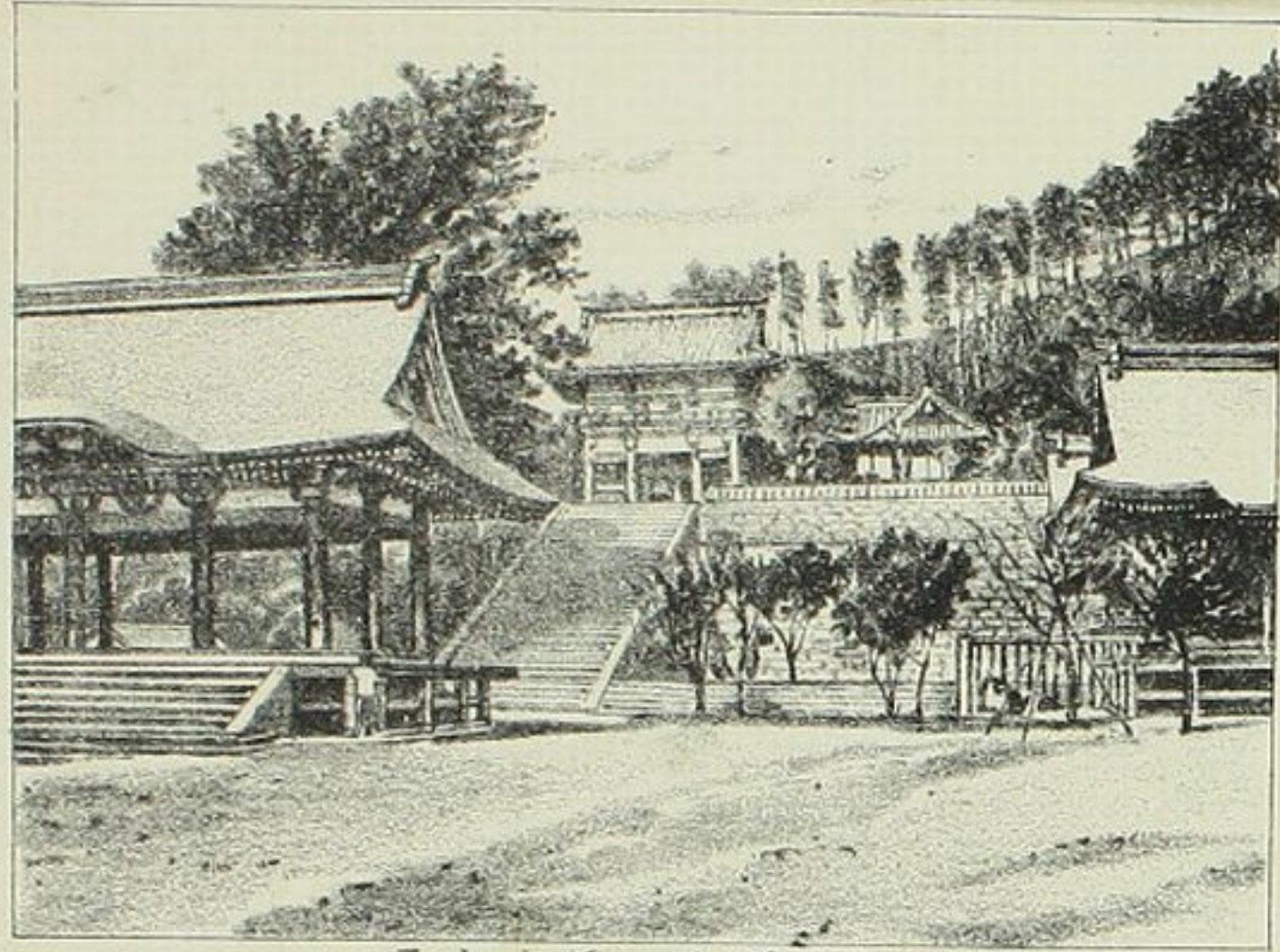
春日さす松の洞大か九監

虚空花障

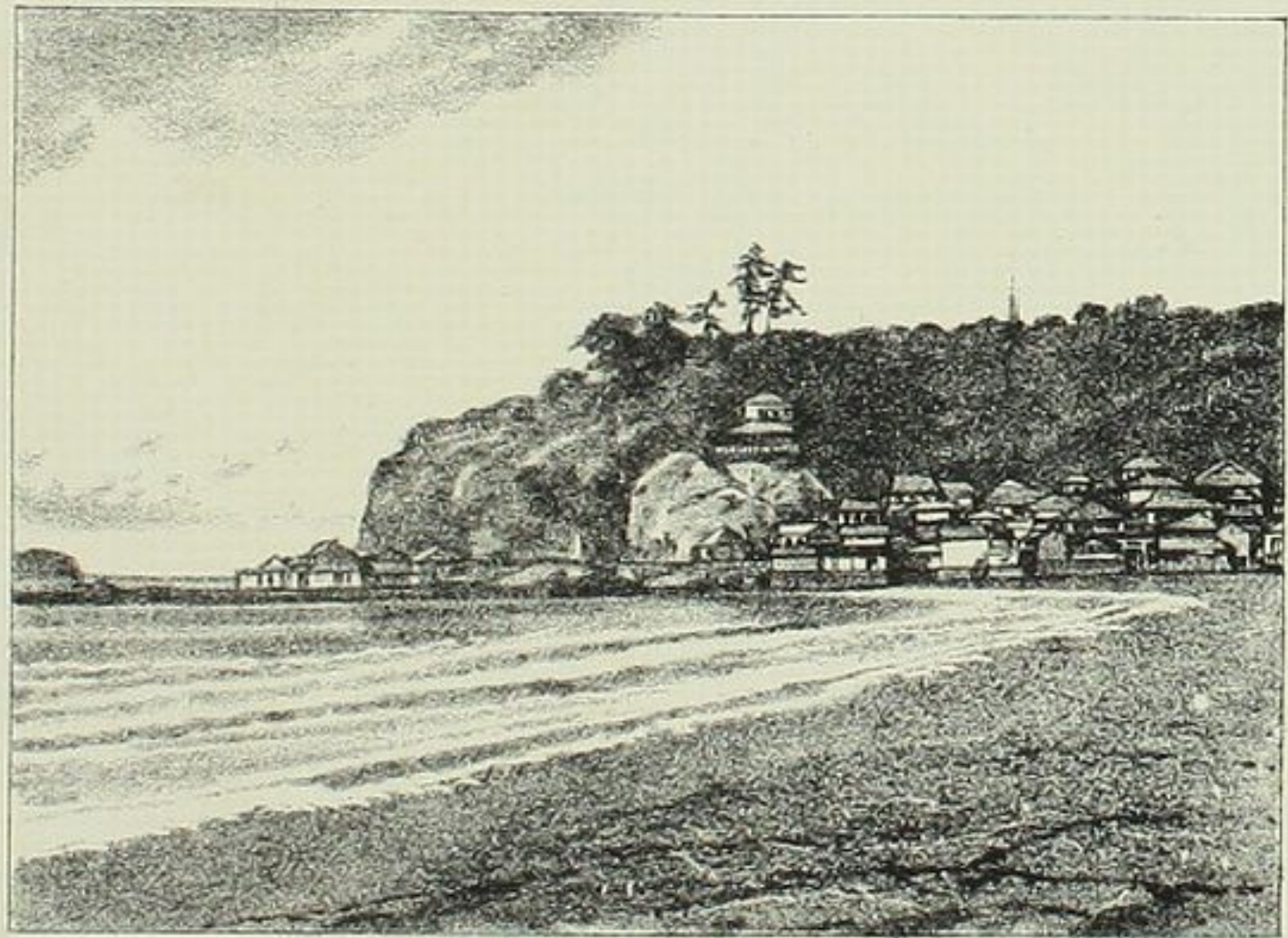
佳きものれ

虚空藏堂の園上し亭と遠望すれ山水の眺望や見事
しより園作峻崖高き敷物の上に行大方孔縁して歸政
に就り文坂下方若松に白土小丘中略下敷千の家相
連霞棚引し紙鳥引つ舞ひ上りし是れ同徳の意
鶴城

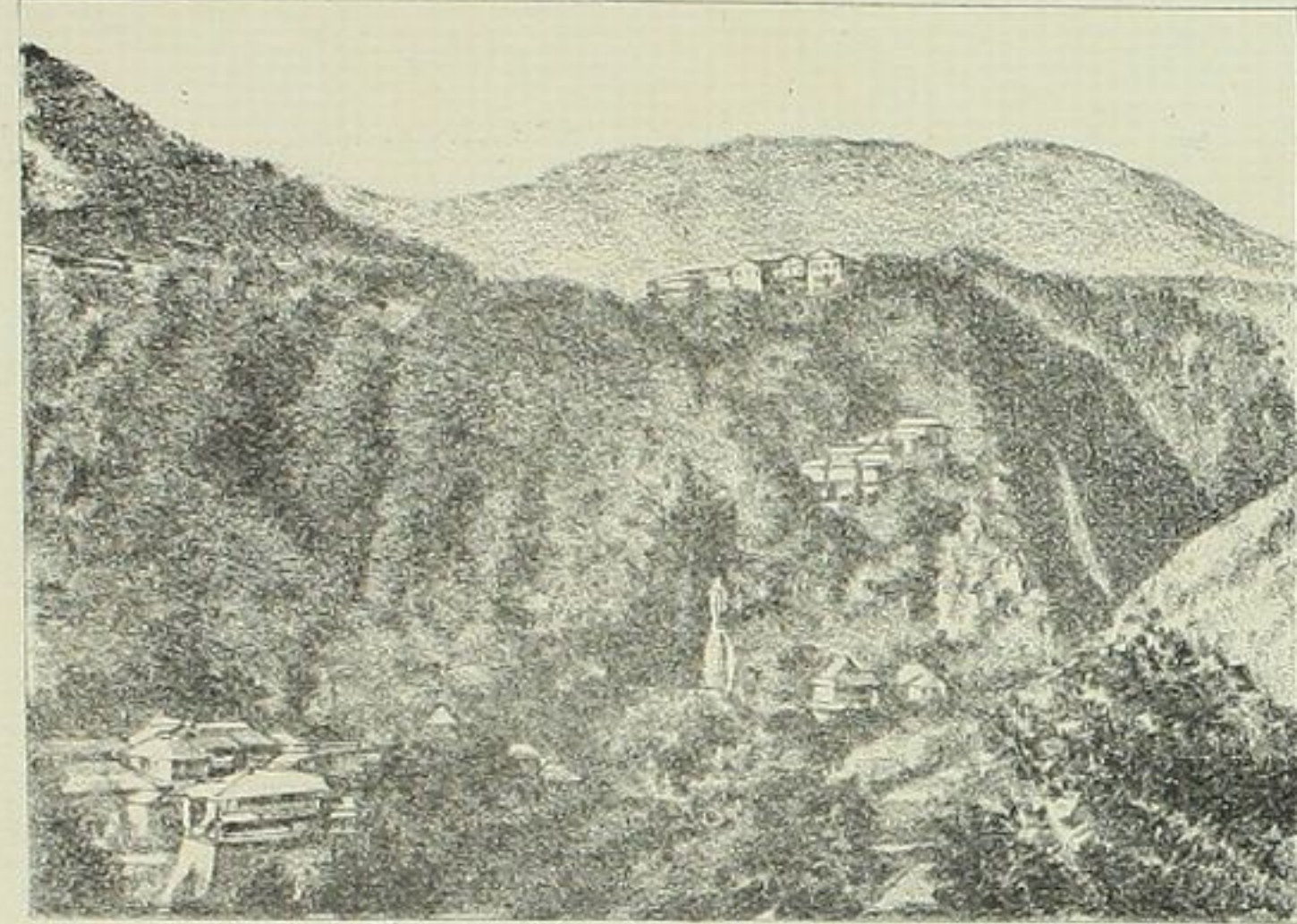
かき又のヤ坂下をすもやかて若松に居し



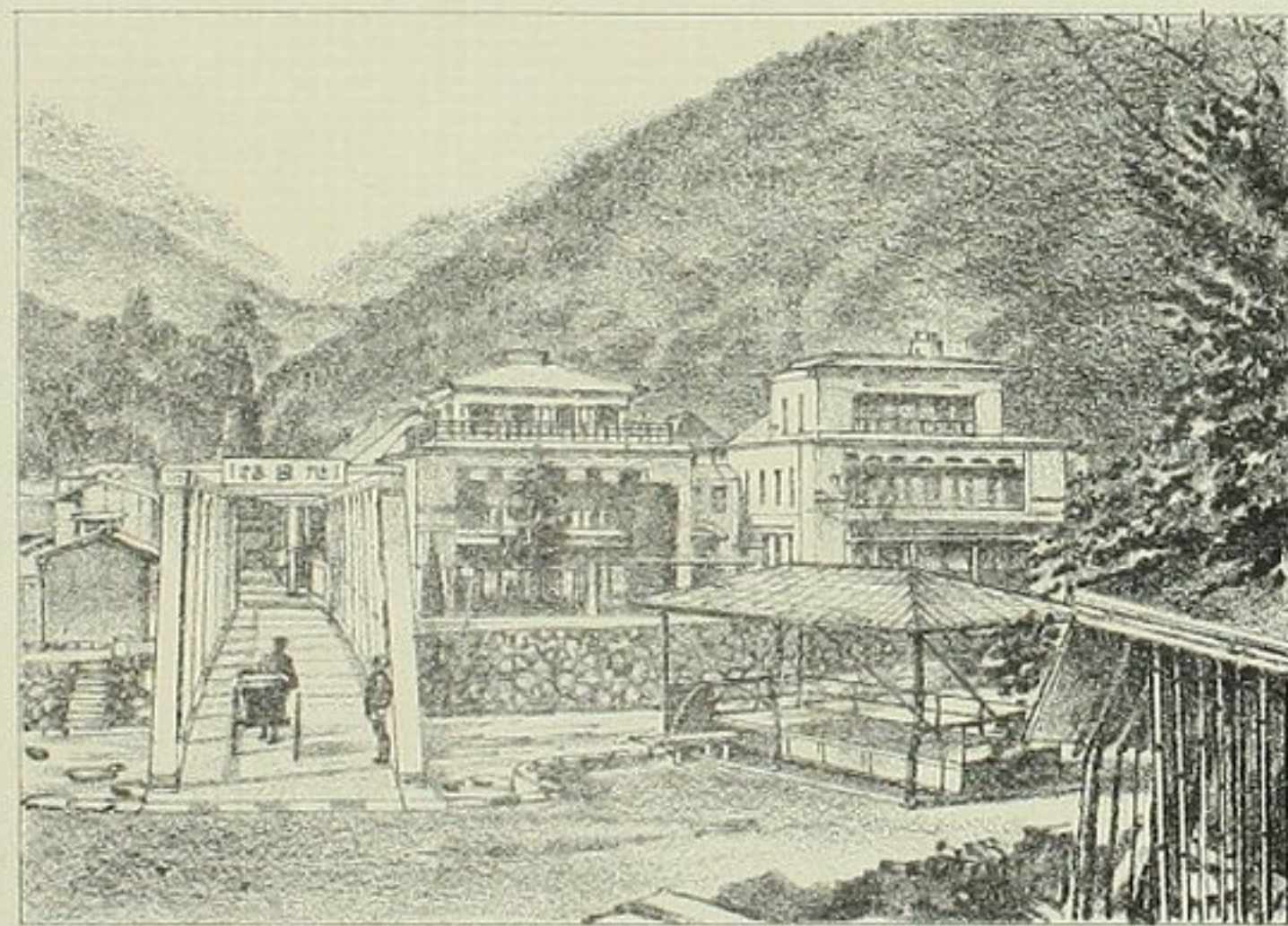
相州鎌倉八幡宮之景



相州江州之島景



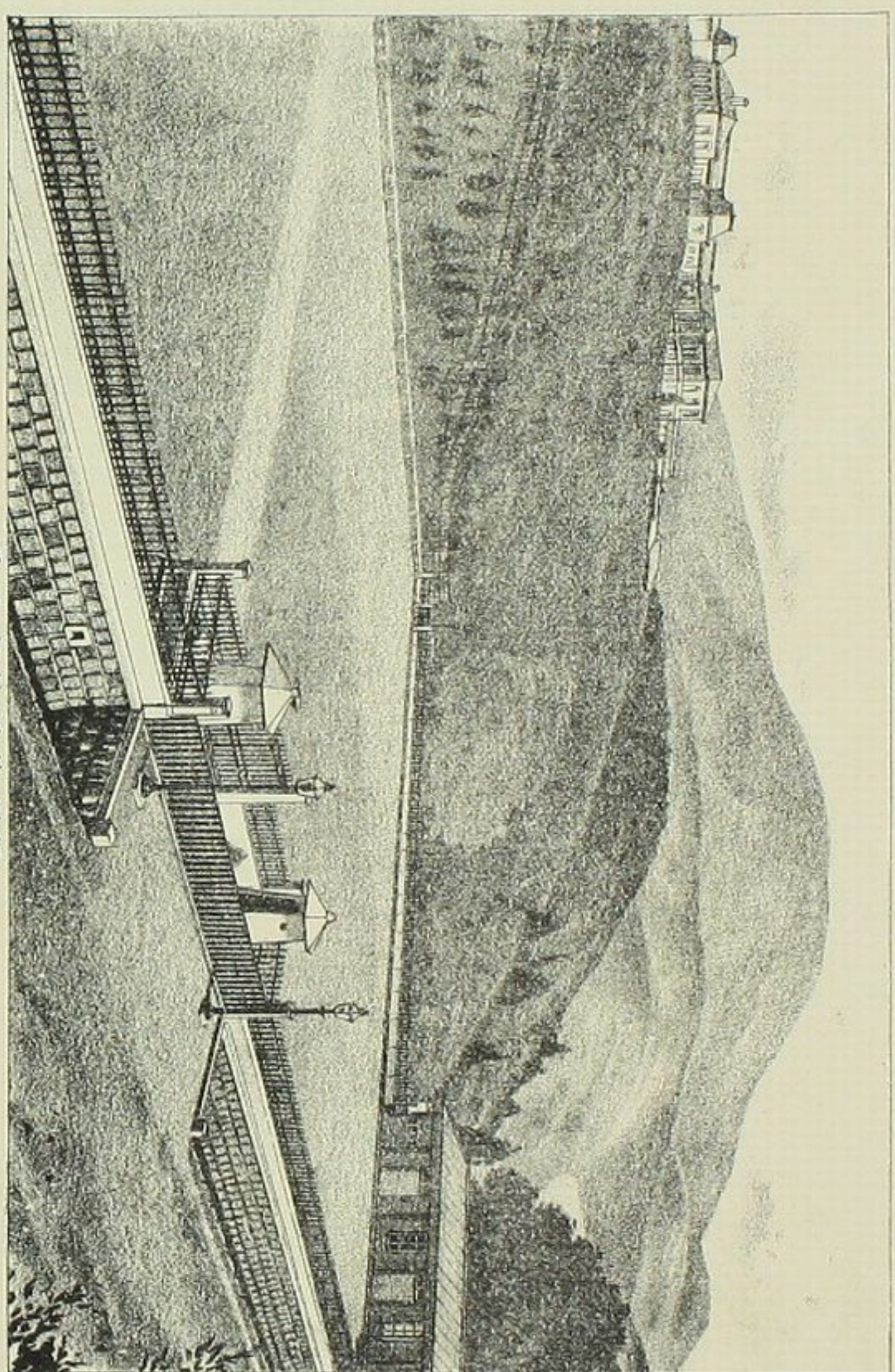
景山望下ノ宮リヨ島ヶ堂根箱



景之館族住福木湯根箱

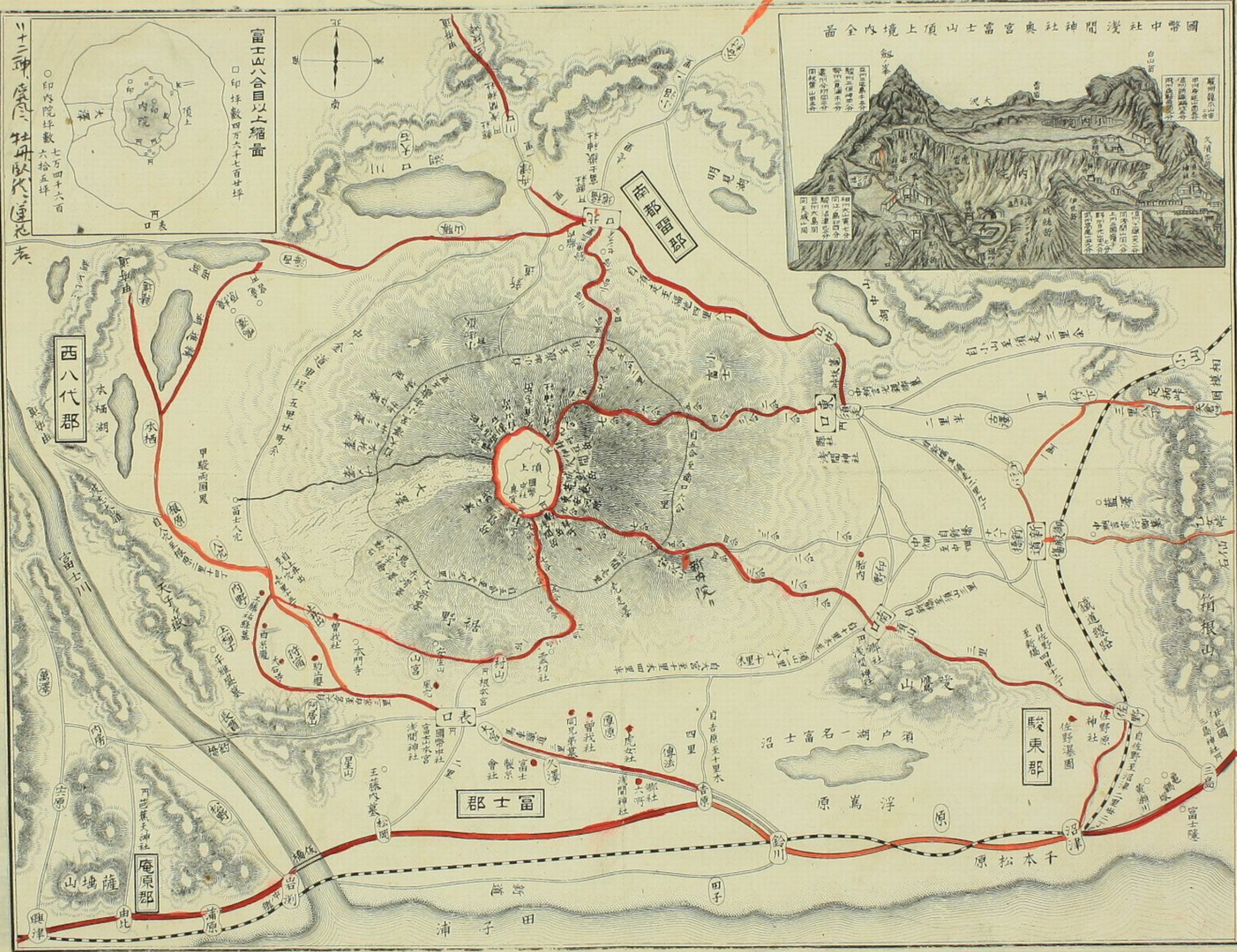
石版畫、漫遊東内ヨリ取ル
 此書發行中ニ藏シ政山溪水ノ邊ニ伴フ
 故ヨリ少ク地志ノ全ク東ニ居ル者トモ今唯
 カ畫ニシテ

富士山明細全圖
富士山巔石屋之求



富士山巔石屋之求

六月



富士山八合目以上縮量
 印坪數四万六千七百坪
 印坪數七万四千六百
 印坪數六拾五坪

三十二種原野
 牡丹代
 蓮花

表

山場薩

庵原郡

浦子田

田子

原松本千

富士原

原萬浮

沼士富名一海戸須

山麓受

駿東郡

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

富士原

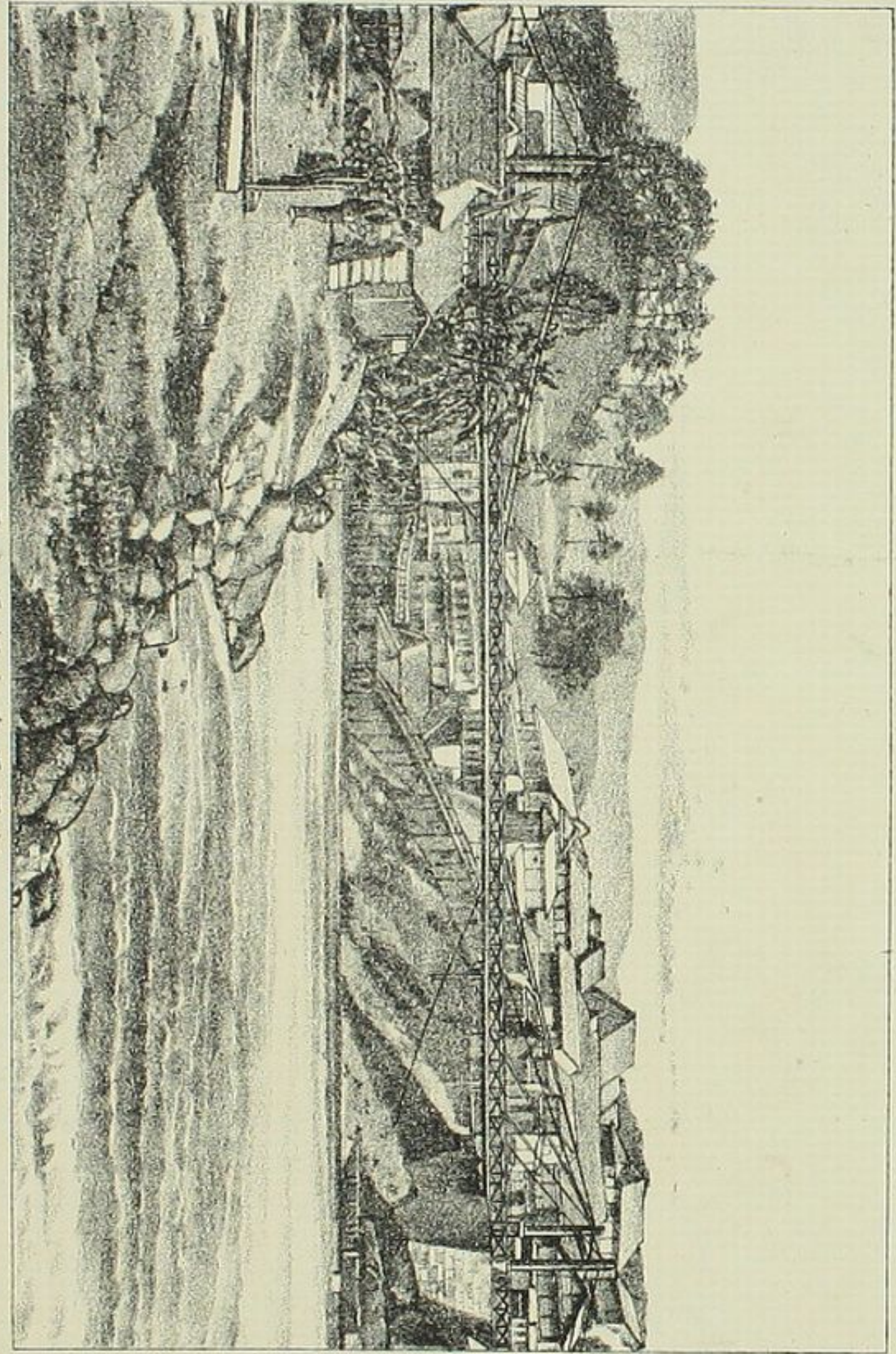
富士原

富士原

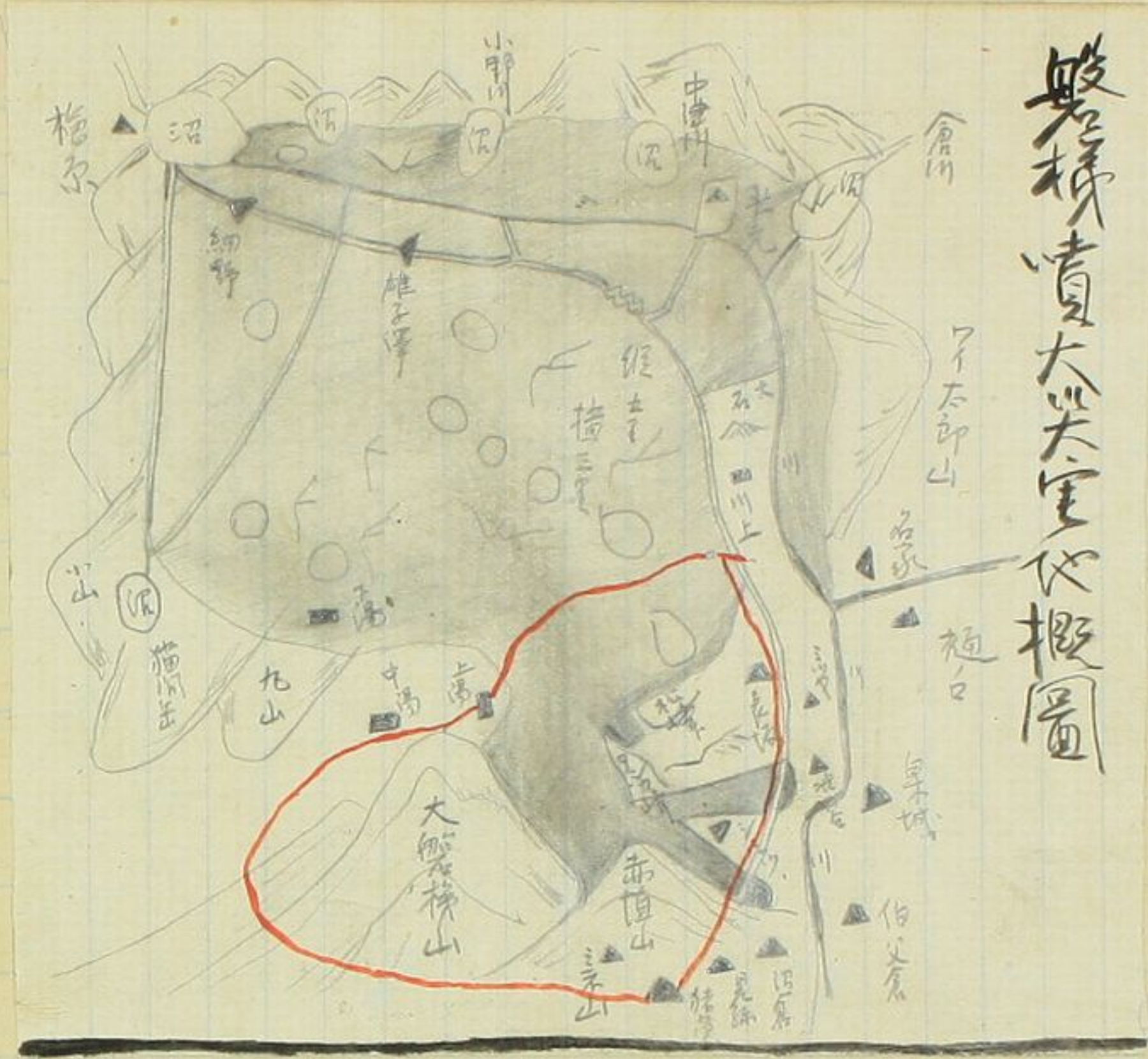
富士原

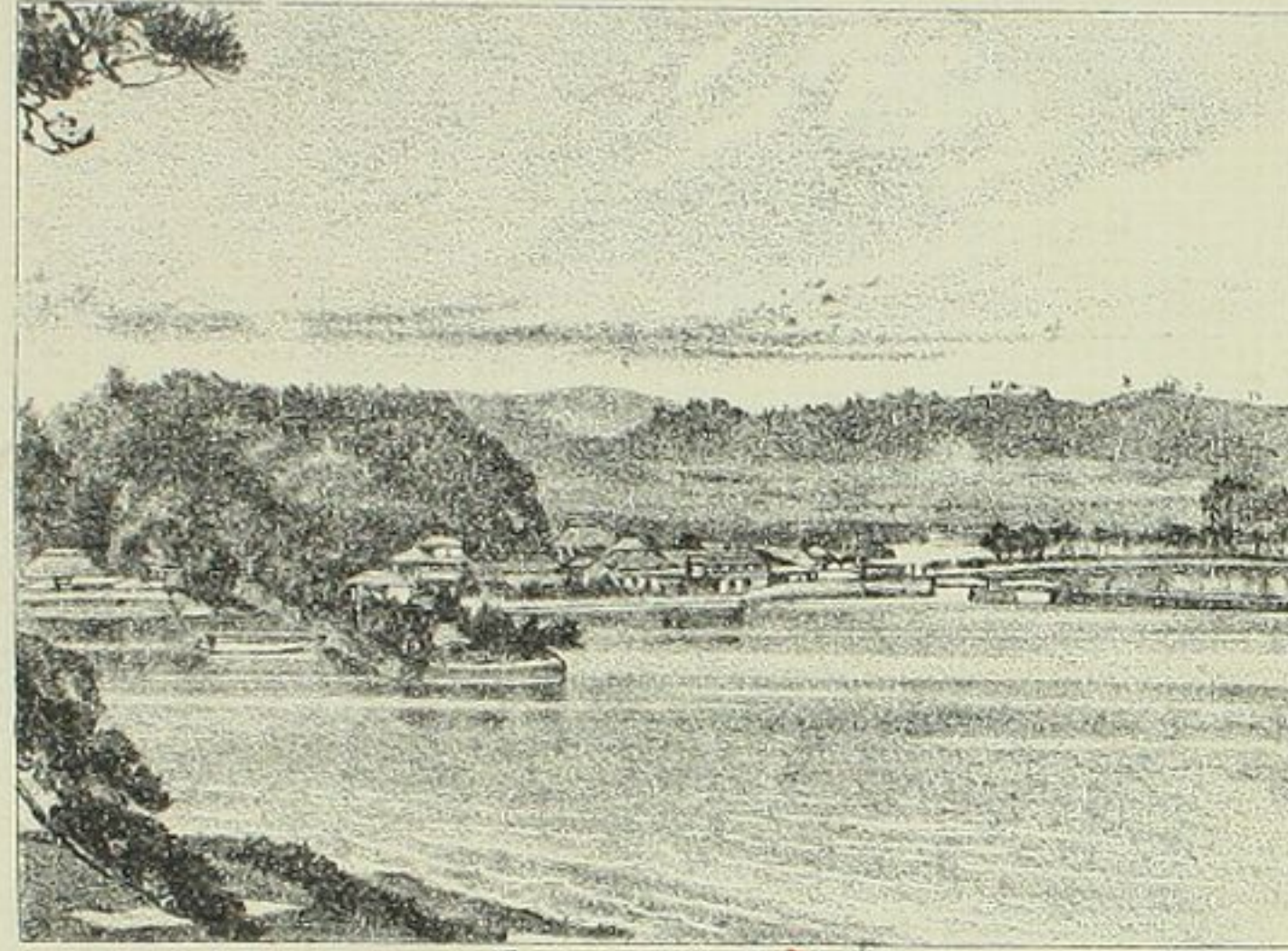
富士原

富士原

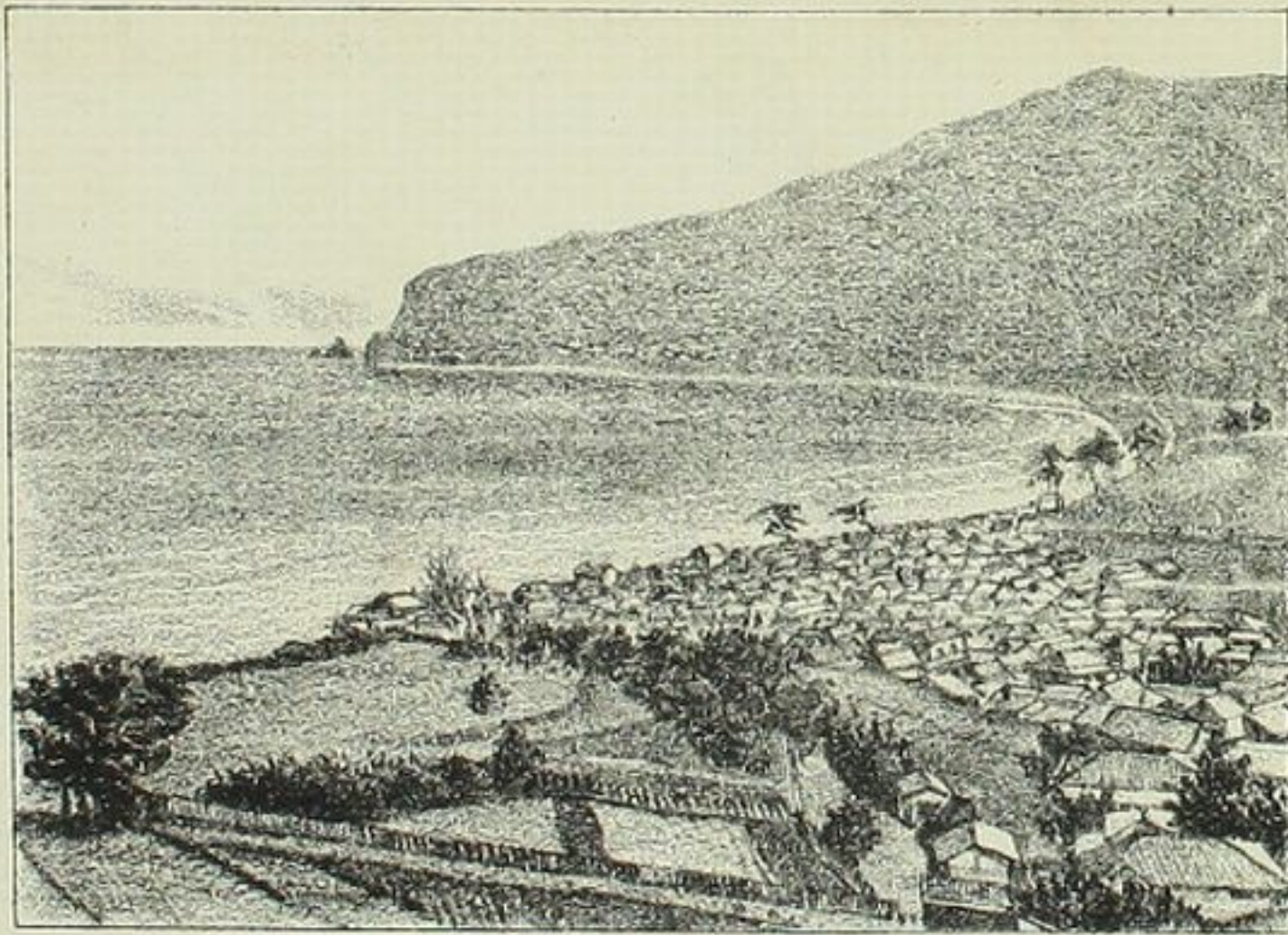


景之橋 綱十 泉 温 飯 飯





武州金州之景



豆州熱海之景



仙臺並芭蕉辻



鹽釜祠

河州山寺

友人神谷龍彦撮寫



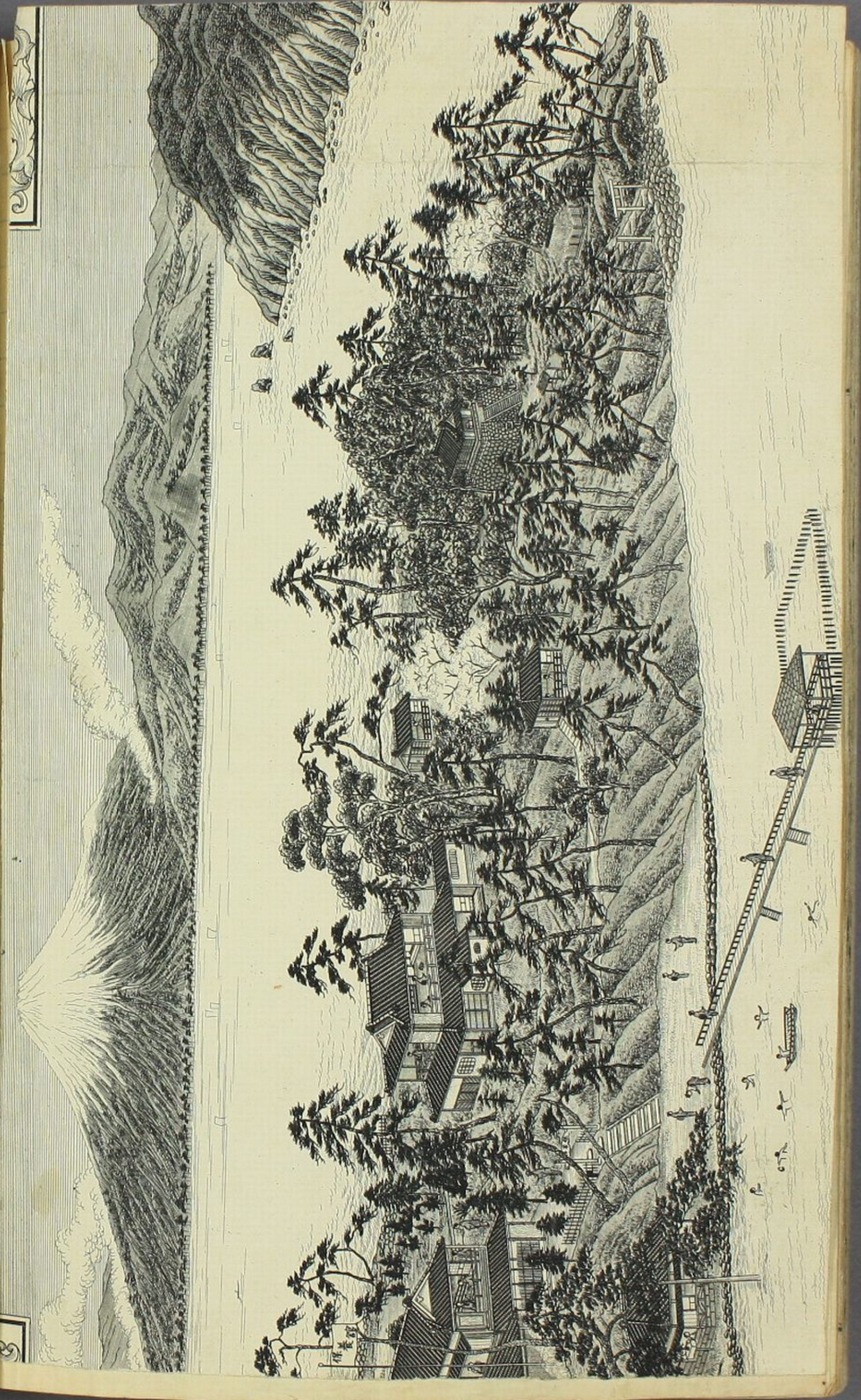
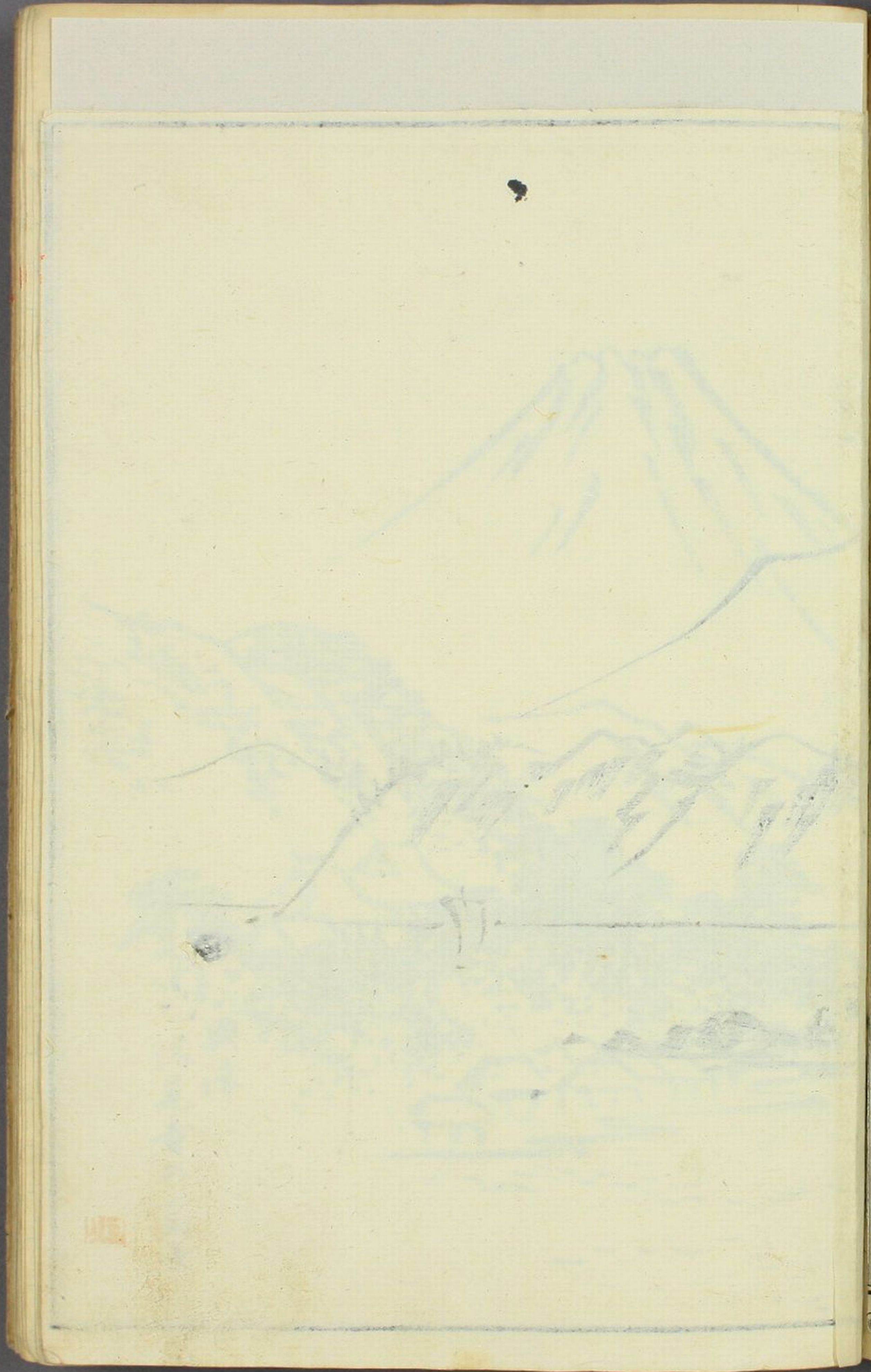
函山葦湖



豆州君澤郡戸田灣



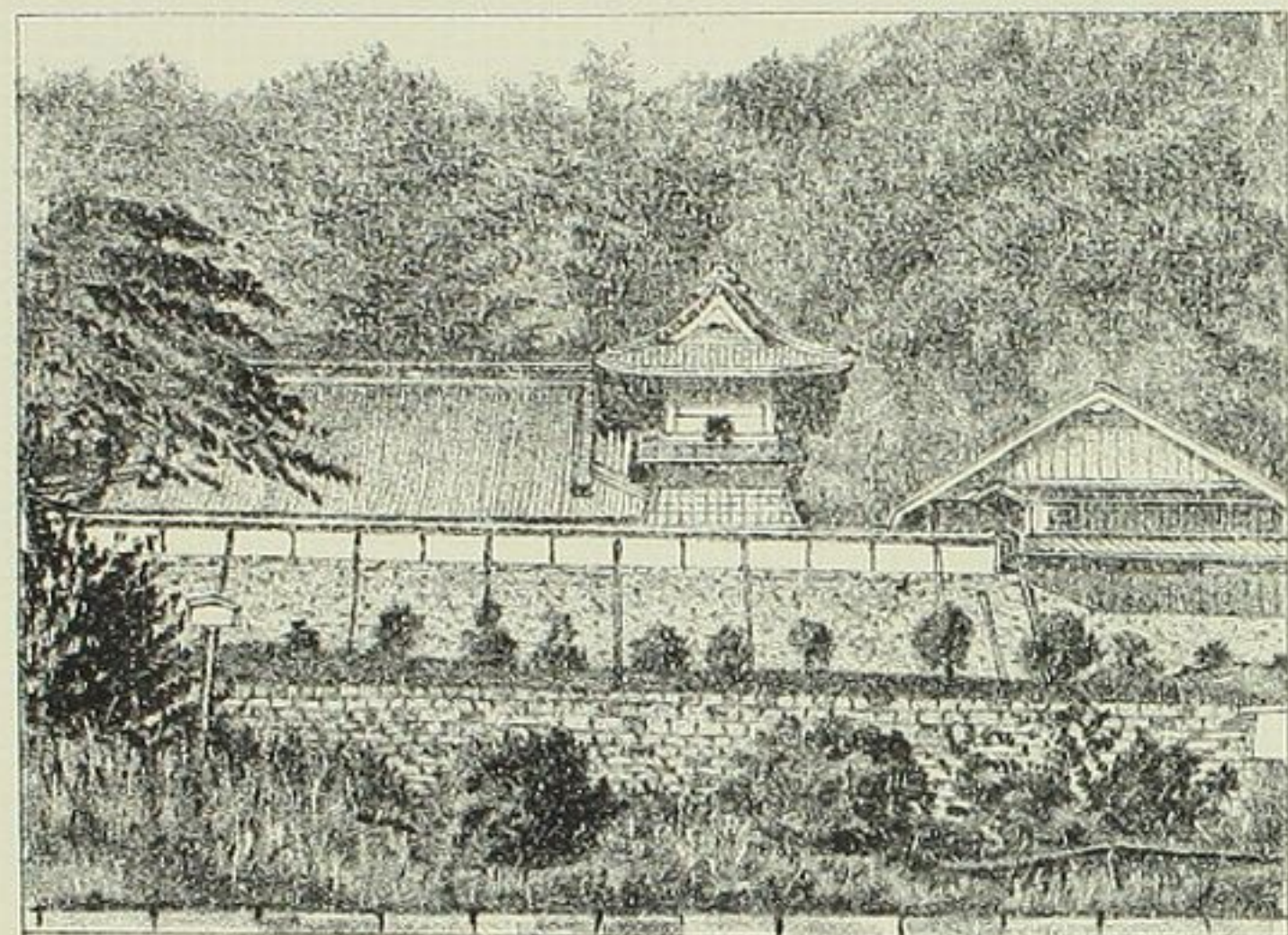
利根川夜景



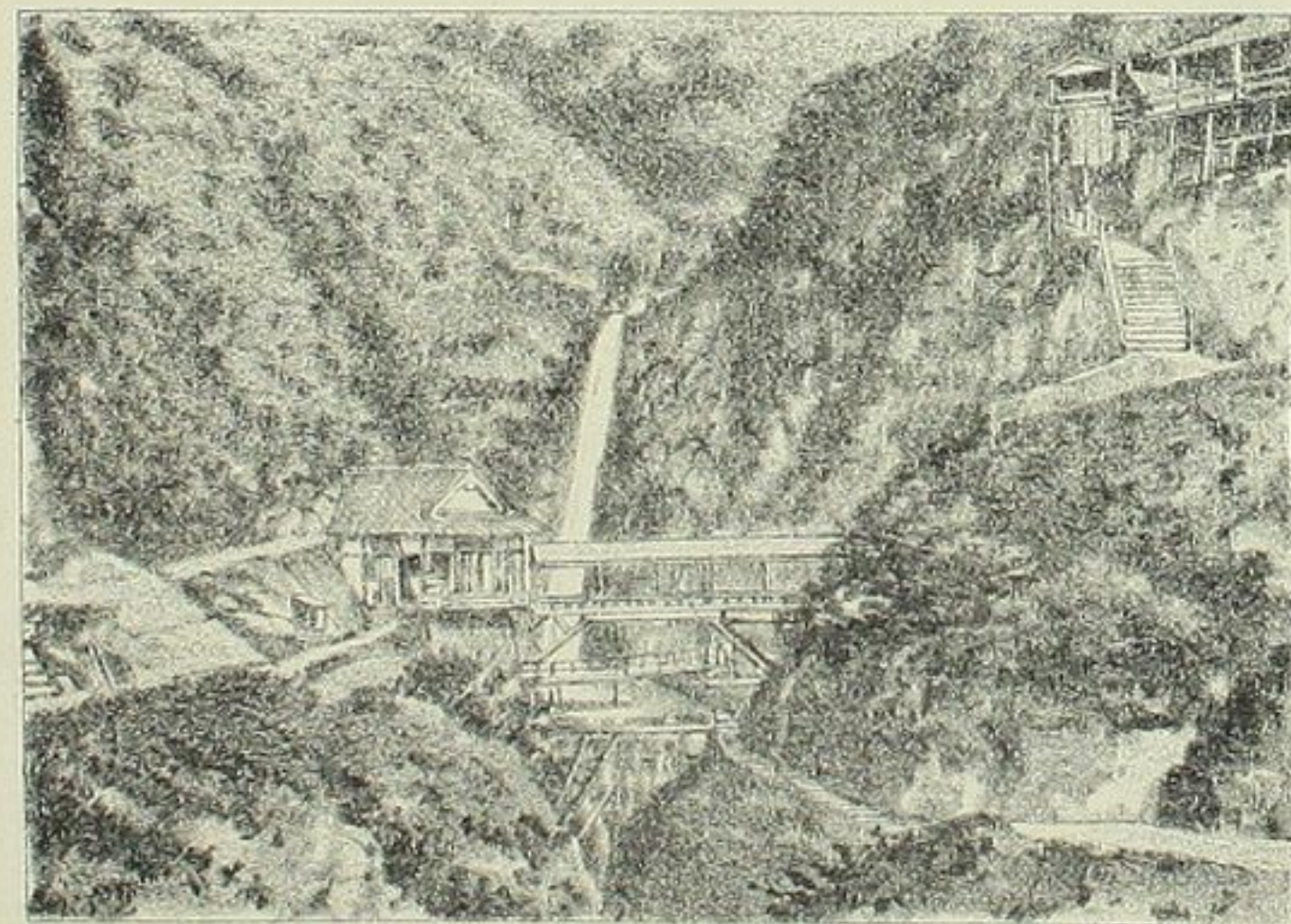


興津
清見寺の富士

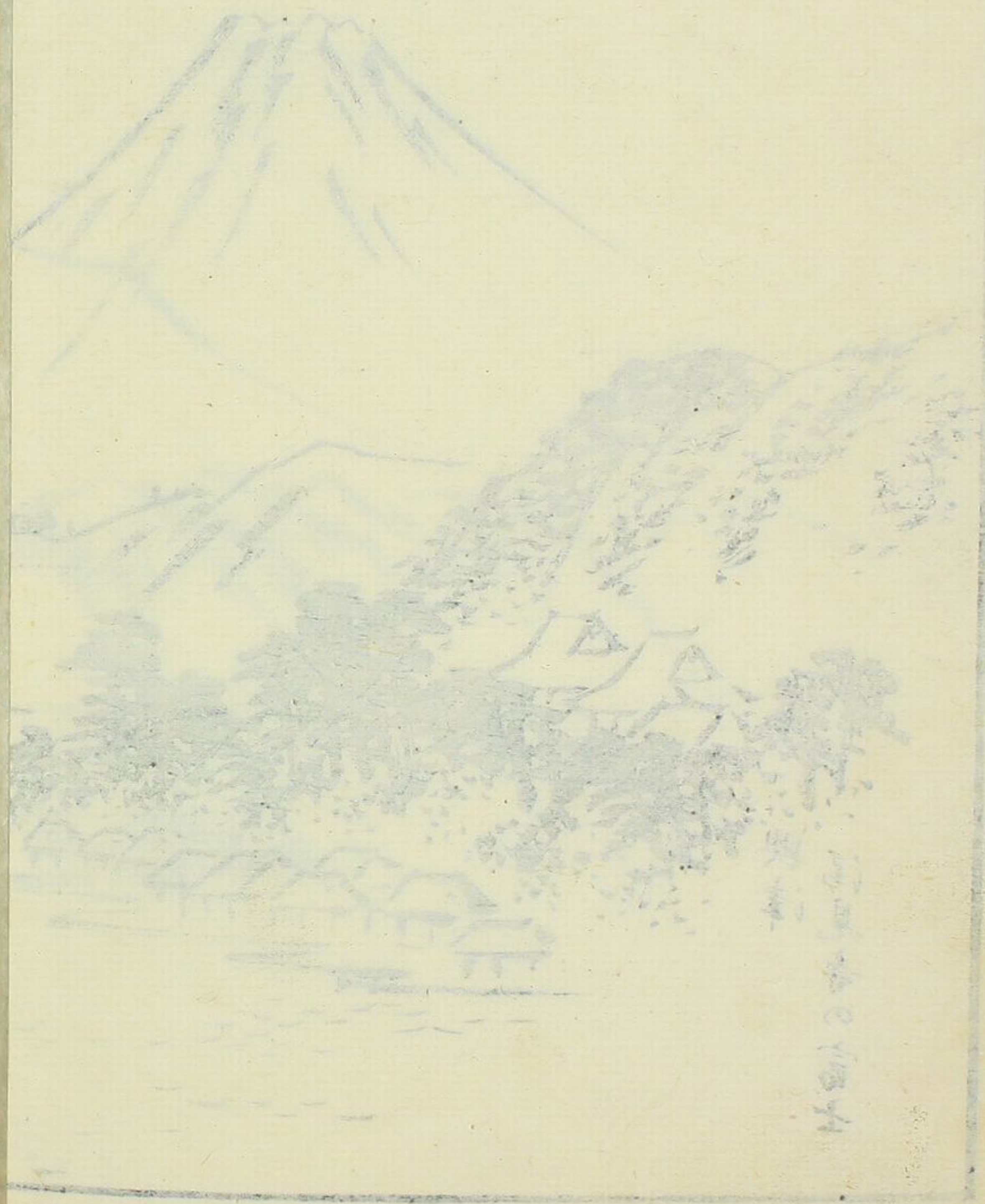
印

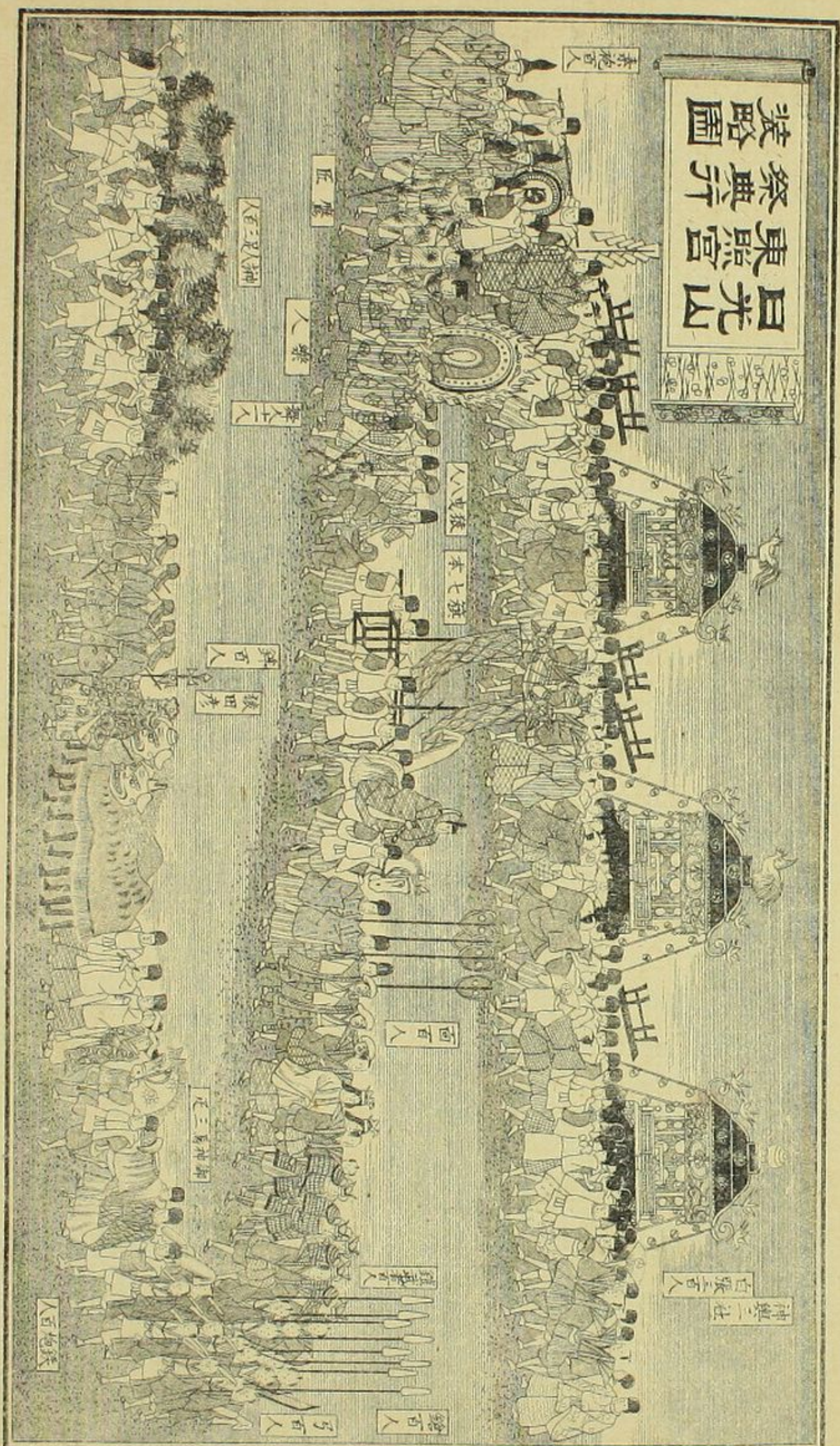


景之寺見清津興



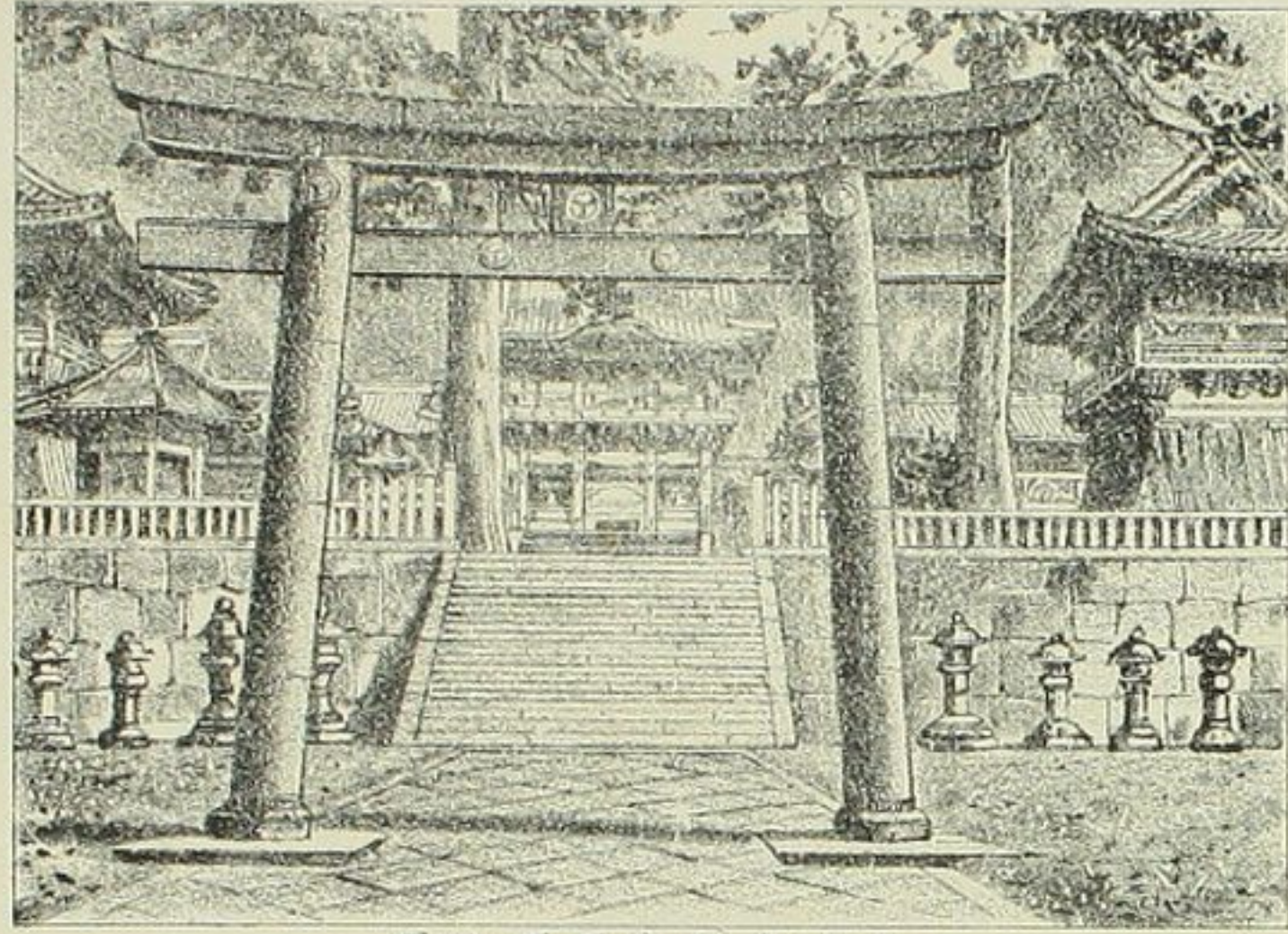
景之布瀑引布户神州棋



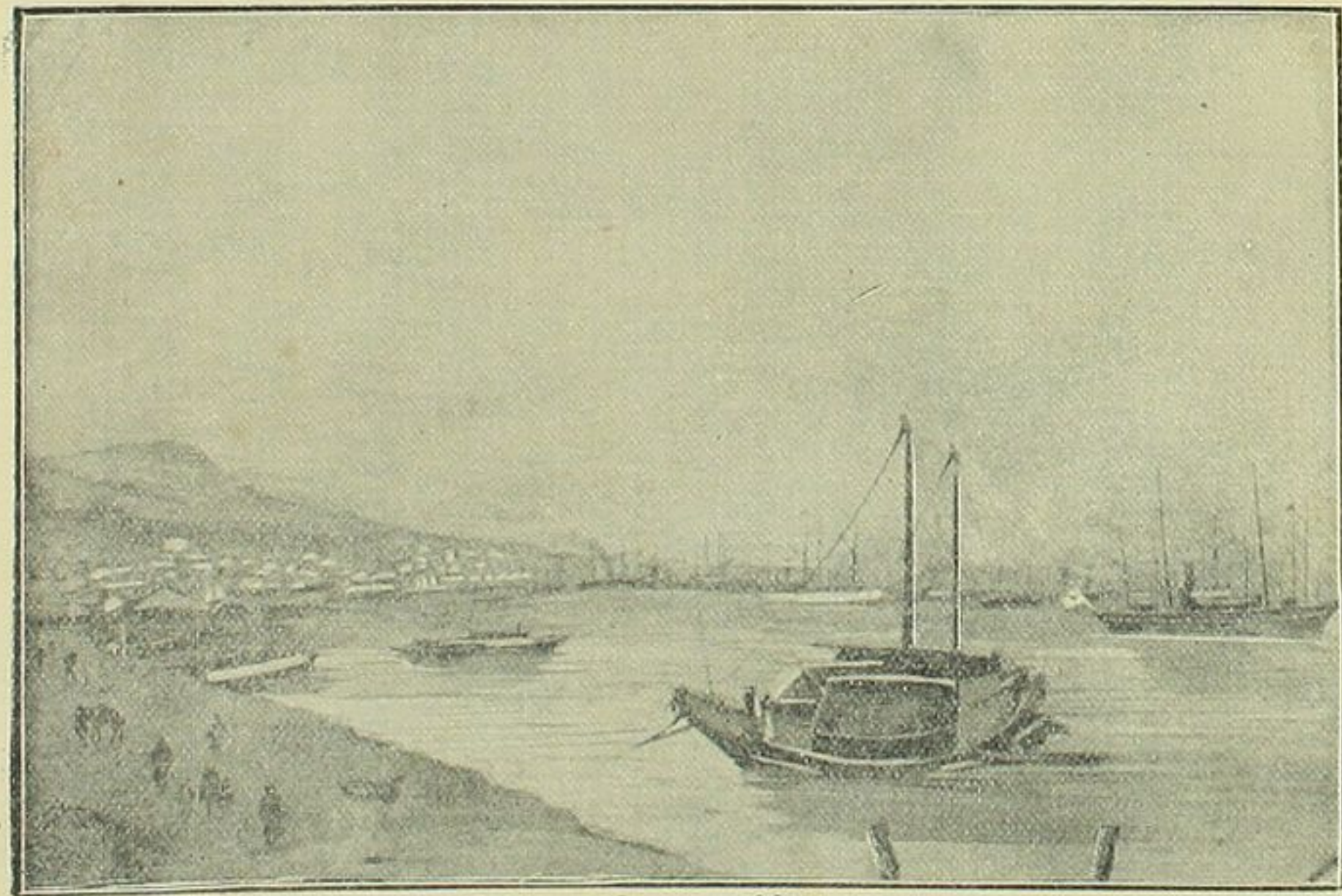


下
犬吠岬



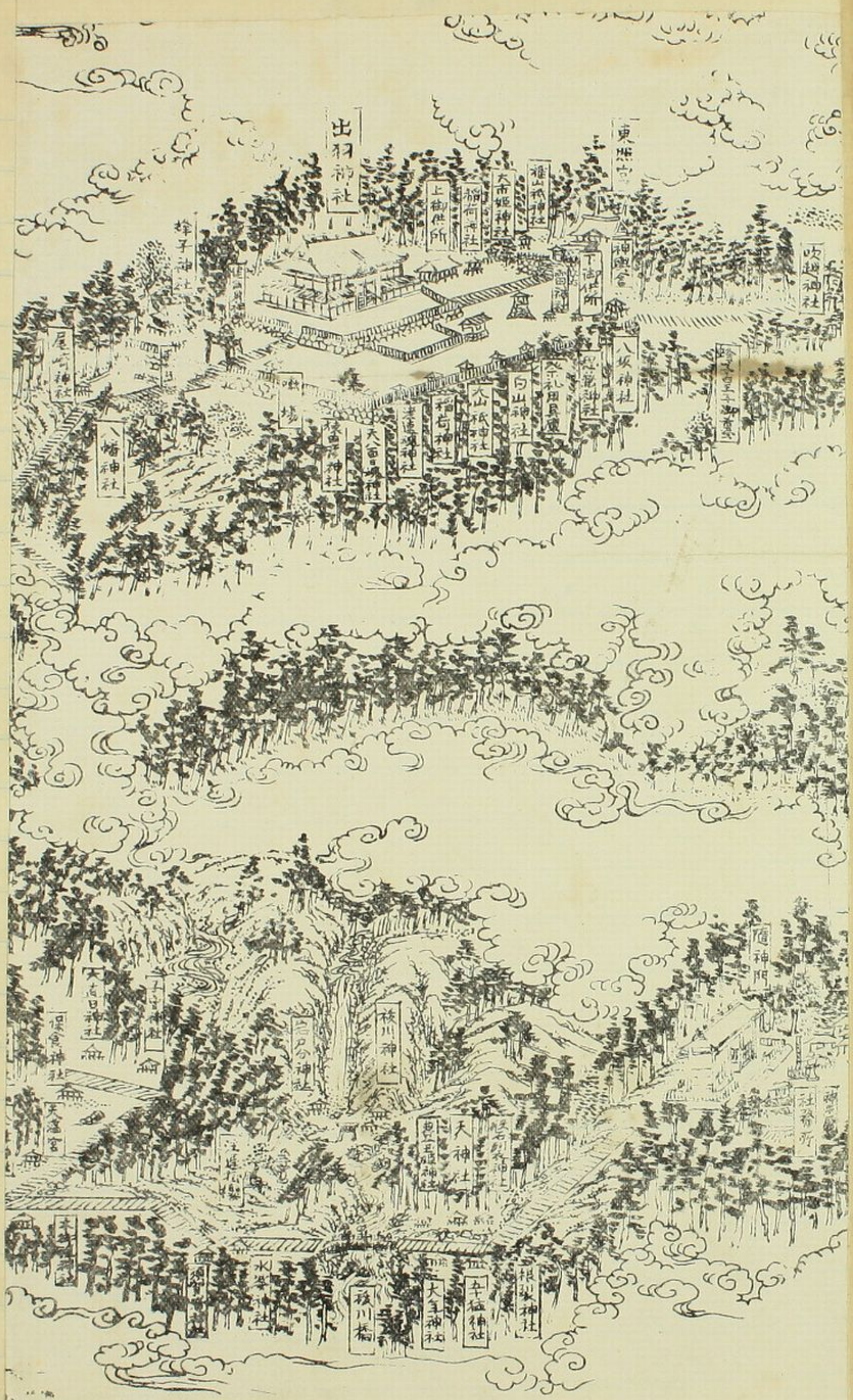


日光東照宮正面之景



函館之景

日光山名所便覽附圖



函館 北海道殖民圖解 取

羽黒山全圖

手白村宿坊三末

金櫻神社三末

山梨縣甲斐國御嶽山新道勝景
鼻仙峽之圖

SHOSENKYONOZU

YAMANASHI KENKAI NOKUNI

MITAKESAN

SHINDONOSHOKEI



圓右衙門像贊

(圓中巖碑文有)

林鶴梁

手足朕朕。山斫谷割。創闢便道。廿稔志遠。馬走輿丁。歌頌曹贊。今諦斯像。醜面羞魃。雖則羞魃。心肯菩薩。

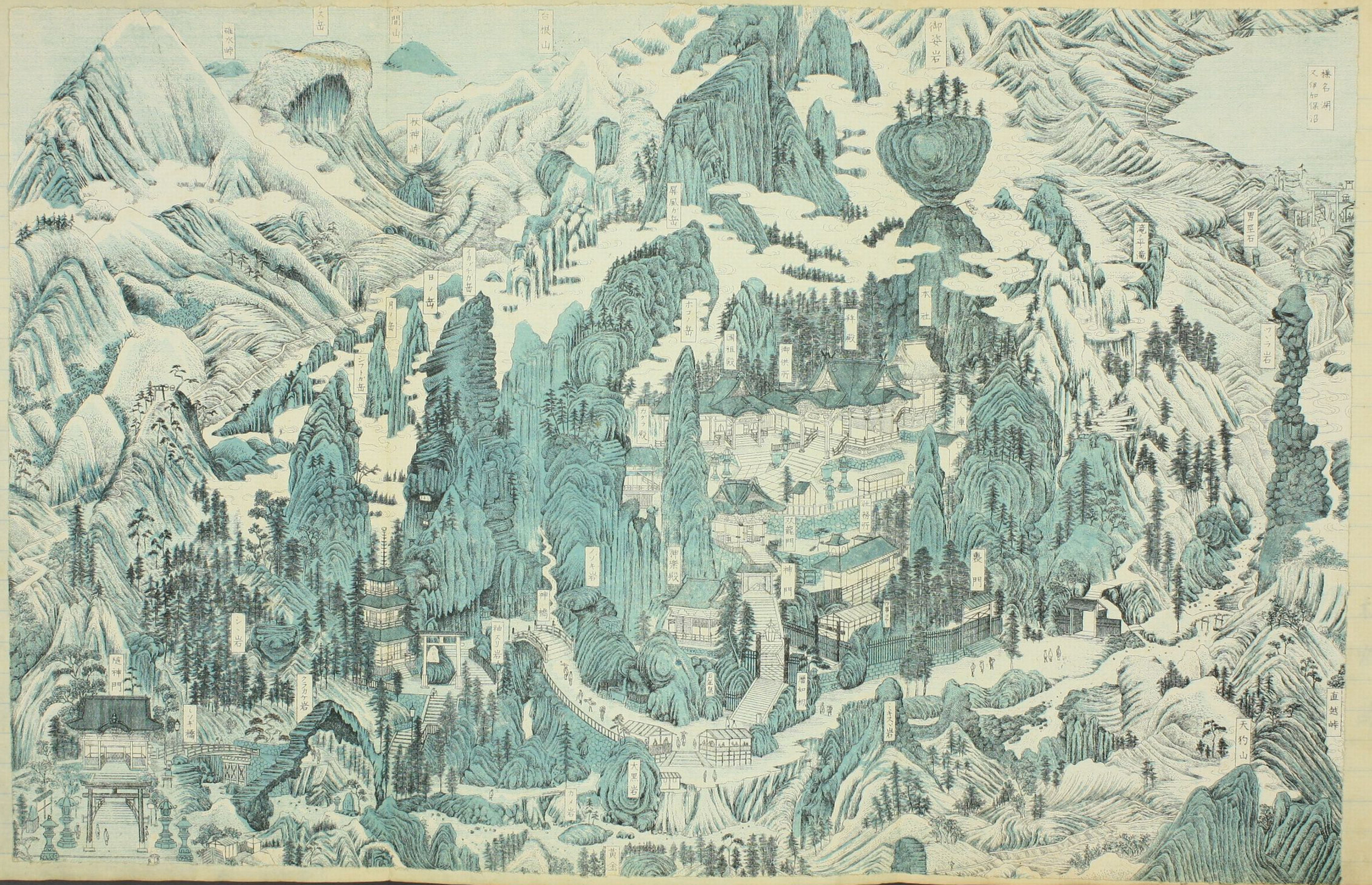
每森於卷曰。通緊無刺語。

林鶴梁

余曾祇役甲州。游其嶽祠新路。風光髣髴。于此境。有奇幸生。抑與此新路。同一峽路也。然彼左右山甚近。路甚小。惜其邊幅。陝隘。此境亦山非不近。路非不小。而林壑之觀。溪山之秀。位置散錯。悉得其宜。所以人之不覺其陝隘也。但甲匪江戶。僅三十餘里。都下詞客。往游者多。張皇之。以為天下之山。非確論也。試使是輩觀此。想當終先耳。然此非都人游履所經。而吾輩親踏其地。探其景。恨無柳柳州之筆。徒使天下奇景。埋沒僻遠之地。古人云。山水亦有幸不幸。豈不信乎。

余未睹幸生之景。然聞人所言。有與鶴梁太遠者。僅是鶴梁。嗜癖之癖。歟。只評昇仙峽。舉其瑕。雖不中亦不遠矣。然彼峽。遂不失為一仙境也。
青琴附記

榛名神社



標名湖
又伊加保沼

男巫石

ツラノ岩

直越峠

天狗山

御姿岩

石根山

杖神峠

龍穴

大岳

六間山

滝平滝

木社

社殿

國祖殿

ホノ岳

ツラノ岩

ソノミ山岩

神橋

袖スリ岩

ソノミ山岩

ツラノ岩

神門

ツラノ岩

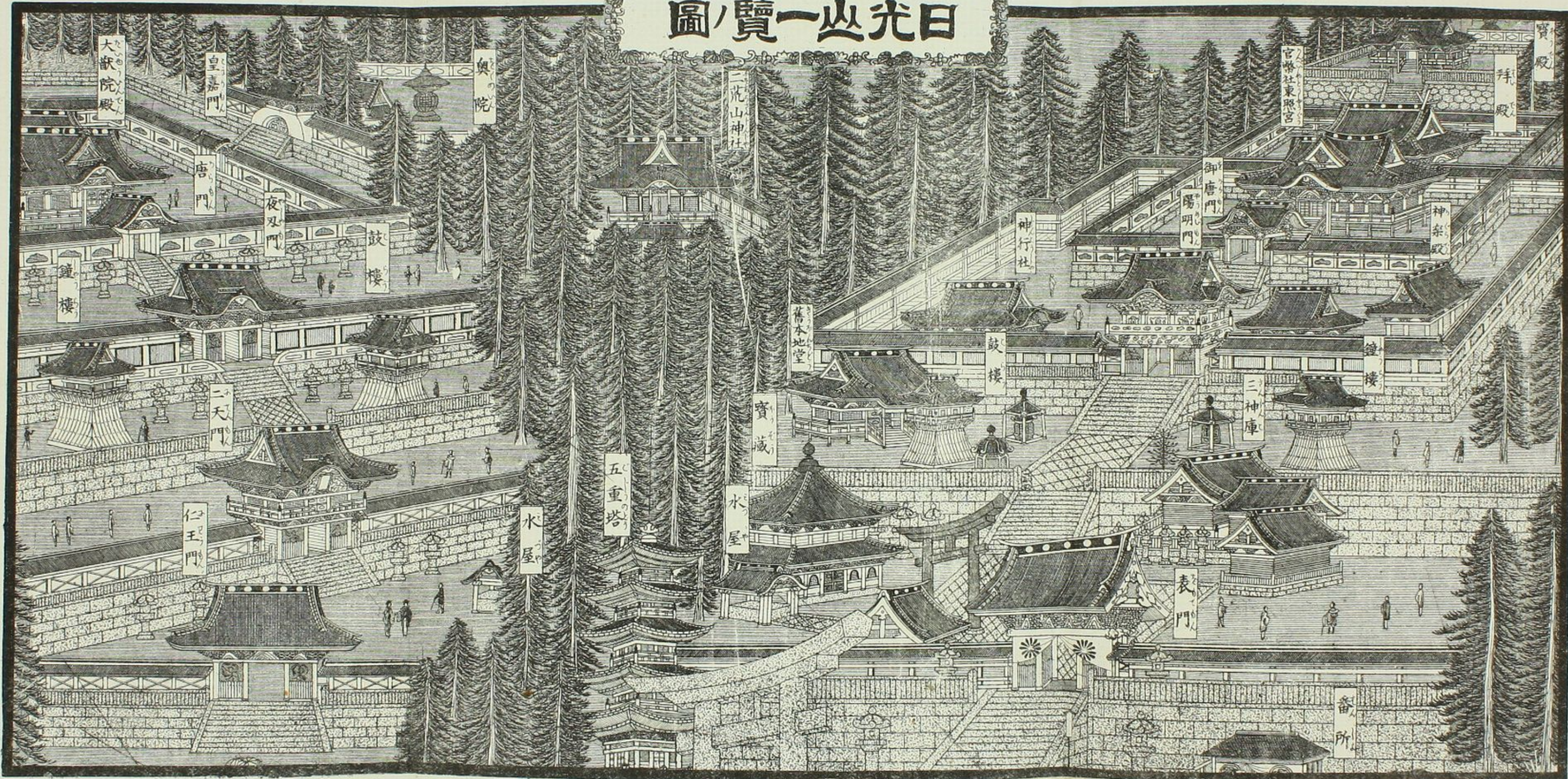
大黒山岩

カノ山岩

黄全

日光山名所便覽了取

日光一覽圖



高遠城略圖

北村

新屋敷

御所

東

御所

寺山

此處以生

北

借目

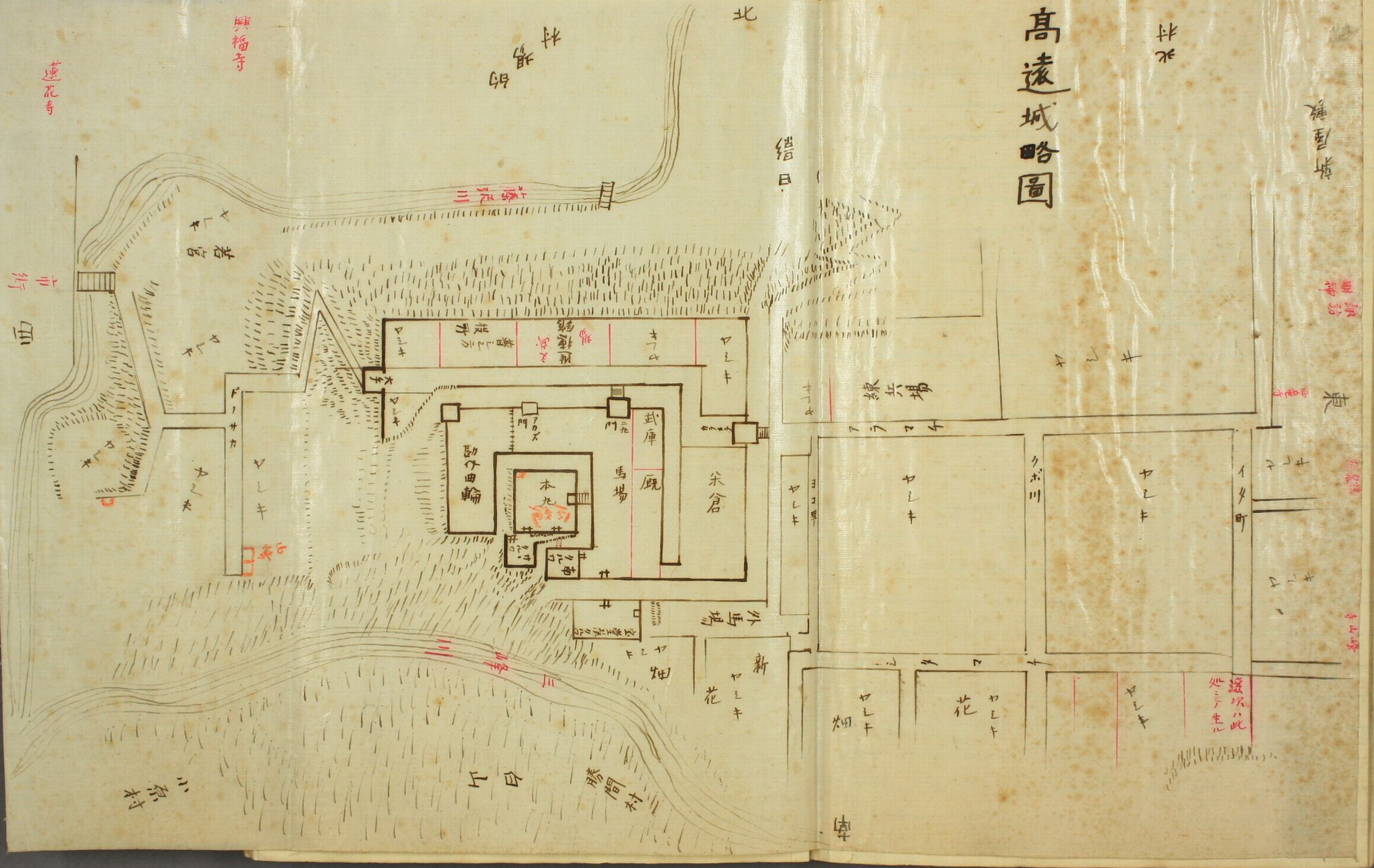
村場的

三勝

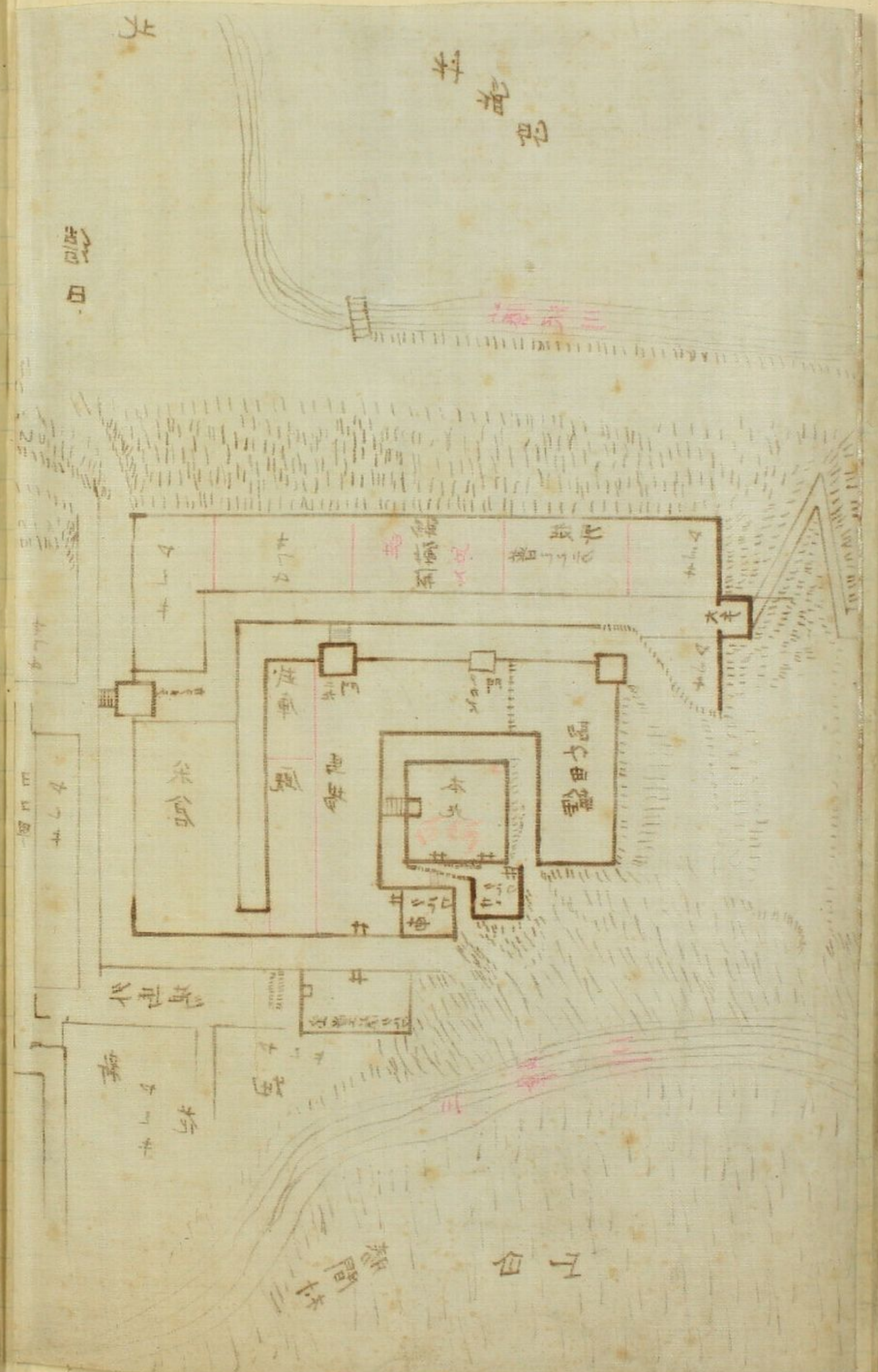
興福寺

蓮花寺

市街



手白村宿坊三求



羽前國
東田川
郡鎮座

三山繪圖



東台五層塔



